

# 第37回定期演奏会へ向けて

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2018年10月7日（日）第37回定期演奏会

### 記事

今日は同仁キリスト教会礼拝堂で本番でした。

6時から予定通り開演。

いろいろありましたが、何とか無事に演奏会を終える事が出来ました。

オケの方々、受付、録音、その他色々お手伝いして下さった方々には、心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました！

演奏会後は、例年通り「タベルナ・アイ」で打ち上げパーティーを行いました。

### 備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2018年10月6日（土）

### 練習箇所

全曲

### 記事

同仁キリスト教会礼拝堂にて2回目のオケ合わせでした。

### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼

バス：椎野 中西

### 備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2018年10月3日（水）

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin

Vier eucharistische Motetten

Missa in contrapuncto in g

Johann Georg Albrechtsberger

Tenebrae factae sunt

Ave Regina coelorum

Domine in auxilium

Johann Michael Haydn

Christus factus est

## 記事

同仁キリスト教会礼拝堂にて、1回目のオケ合わせ。

### ★Benedicam Dominum

- ・36～46小節：躍動感を出す（喜びを表現）
- ・53小節：語尾は内切り。

### ★O sacramentum

- ・18,19小節：それぞれ1拍目裏の入りのハーモニーを大事に。

### ★O felix caritas

- ・1,3拍目に気持ちを込める。
- ・17小節：3拍目裏の新しいフレーズは一緒に仕切り直す。

### ★Agimus tibi gratias

- ・24～28小節：先に進むように。（もう少し起伏が出るといい）

### ★Agnus Dei(Dona nobis pacem)

- ・101小節～：長い音符はしっかり声を張って歌う。

### ★Domine in auxilium

- ・ゴージャスに歌い出しましょう。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：翁長 大庭 柿沼

バス：椎野 中西

## 備考

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年10月2日 (火)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g

Johann Georg Albrechtsberger  
Tenebrae factae sunt

記事

臨時練習 19:00~21:00 (バッハはうす)  
全体発声練習:25分

内容

《全体》

- ・声が前に、上に向かう発声で歌う。発音も明瞭に。
- 顎を下に落とすとピッチが落ちやすいので、上に開けることを意識しましょう。
- ・声を出すことにのみ注意が行くと周りの音、声が聴こえなくなる。周りを聴きながら歌えるよう声量をコントロールすること。
- ・抑揚をつけるのは良いが、全て後押しするのはNG。真っ直ぐに歌うことをまずは心掛ける。

★Kyrie

- ・7小節アルト：F-E-Dの下降形の音が外れないように。特にEの音が落ちやすい。表声にするのではなく、裏声の発声を保って音を辿る。
  - ・23小節テノール：タイで結ばれた次の音の出だし遅れない。
- D-C-Bの下降形で声を落とさない。内側にこもった声にならないように。  
(この下降音形は曲全体同様)

★Gloria

☆Qui tollis

- ・157小節テノール：低い声は小さめに、高い音はハリのある裏声で歌う。
- ・297小節～全体：出だし'amen'の四分音符は音を外さないように予めイメージしてから歌い出す。

★Credo

- ・30小節テノール：タイで結ばれた次の音の出だし遅れない。
- ・32小節テノール：2拍目'vi'声が下向きにならないように。上から被さるイメージで歌い出す。

☆Crucifixus

- ・223小節テノール：出だしの音を予めイメージし、静かにスタートする。
- ・223小節バス：テノールと同じ音でスタートします。たまにハモってしまうので要注意。

★Sanctus

☆Benedictus

- ・98小節全体：2拍目はスッと消える。次の出だし遅れない。

★Tenebrae factae sunt

- ・全体：次の音、ハーモニーをイメージしながら歌う。

★Kyrie～Credo (Crucifixus)

- ・最後に声量を落として響きを聴き合いながら通しました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西

## 備考

冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年9月27日 (木)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin

Missa in contrapuncto in g

Credo

Gloria

Kyrie

Vier eucharistische Motetten

## 記事

臨時練習 19:00~21:00 (バッハはうす)

全体発声練習：15分

内容

### ★Credo

・54小節～テノール：入りの"Et"は、お腹に力を入れてはっきりと歌い出す。"u-num"の"u" (As) のピッチが下がらないように。

63小節からのC→B→Aはピッチが落ちやすい。一つ一つ音を取り直すよりポルタメントでつながって通過した方がうまくいく。

215小節アルト：はっきりした声で。もっと声帯を閉じる。

### ☆Crucifixus

・223小節テノール：入りの音の取り方：前小節のハーモニーに欠けている第3音(B)を思い浮かべる。その音から入る。

・236小節～テノール：Dの音が7小節続くが、言葉の音節を歌い直す度にピッチを上昇させる気持ちで歌う。

### ☆Et resurrexit

・282小節アルト：入りの音を頭の中でイメージする。

・288～308小節：フレーズの入りが各パートまちまちなので、間違えやすい。慣れるために繰り返し練習。

この箇所の歌詞の意味は「彼の威光は終わりが無い」。音楽の作りを見ると、「ずっと続く」ということを表したかったのかもしれない。

### ★Gloria

・61～70小節テノール：テノールが先導して新しいハーモニーを作っていく切り口の音、61小節のC、66小節のDのピッチを決める。それぞれその次の音で母音が"o"に変わるが、ピッチが変わらないように。

64小節のAは、バスのFとハーモニーが決まるように。

☆Qui tollis

・169小節～テノール：フレーズの最後まで声は内側に仕舞い込まず外側に出す。また下りの音（170小節Cis、171小節C～）は声が上を向いているように。

★Kyrie

・41小節～アルト：しっかりした表声で入り、音が高まるにつれてだんだんと裏声の割合を増やしていく。

・58小節～テノール：59小節2拍目からの"ri-e"はピッチが下がりやすいのでポルタメントで通過する。

60小節の"e-lei"は熱心な上向きの声で。そして曲の最後まで張りのある声で歌い、ピッチを保つ。

★Benedicam Dominum

・47小節テノール：Eの音をしっかり高めにとって、ハーモニーが決まるように。

★O sacramentum

・29小節テノール：Dの音がかくぐもってピッチが下がるので、明るく取る。

29小節と30小節の間でブレスを取って最後まで余裕を持って歌えるように。

★O felix caritas

・"Alleluja"は生き生きと。言葉の抑揚は、昨日練習したアルブレヒツベルガーと同じように"-le-"と"-ja"に重心をかけて歌う。

・13小節テノール：3拍目のCの音にしっかり輝かしい声で入るように。また、2拍目のEの音にしっかり届くように。

・31小節テノール：入りの音は、前の小節で歌い終わったAと同じ音。休符の間、頭の中でAの音を鳴らし続けると、入りやすい。

★Agimus tibi gratias

・2回通して歌いました。（1回目はアカペラ、2回目は伴奏付きで）

出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：1人

備考

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年9月26日（水）

練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger  
Ave Regina coelorum  
Domine in auxilium

Johann Ernst Eberlin

Missa in contrapuncto in g  
Agnus Dei  
Sanctus  
Credo (Crucifixus ～ 最後まで)

Johann Michael Haydn  
Vier Stuecke  
Jesu, Redemptor omnium  
Sancti Dei  
Surgite sancti

## 記事

個人レッスン：大久保さん  
全体発声練習：25分

### 内容

#### ★Ave Regina coelorum

- ・107小節テノール&アルト：ここからテンポが変わるのでよく指揮を見て遅れずに出る。
- ・119小節～アルト：Aisを中心にこのフレーズをチューニング。'ex'の'e'の母音をクリアにはっきりと。
- ・136小節アルト：高い音がパート内で揃っていないので合わせましょう。
- ・165小節バス：Fis→Gへ上がる時に気合いを入れて？思い切り上がる。

#### ★Domine in auxilium

- ・1小節テノール：ハーモニーに入れ辛い音ではあるが、頭の中でイメージしてしっかり入る。
- ・4小節全体：ここはpです。特にテノールが大きくなってしまうので要注意。(17-18小節も同様)
- ・8小節アルト：'qui'のHの音はハリのある息漏れのしない声で。
- ・25小節～男声：Alleluja の歌い方

'A'は軽く短く終え、すぐに'I'を発音、長母音で'-le-'を長く発音する。'-lu-'は軽く、'-ja'でまた重心をかける。出し引きをすることで前へ推進していく。

#### ★Agnus Dei

- ・全体：'tollis'の発音 'o'が暗くなり過ぎないように。
- ・全体：'tollis peccata'の四分音符を急がない。'pe'の入りは裏拍のビートを感じて入る。
- ・37小節テノール：A→Bに上がる時に上から入る。

#### ☆Dona nobis pacem

- ・64小節～全体：タイで結ばれたメロディ (64小節～バス、74小節～ソプラノ、76小節～テノール) 間延びしないように。
- ・141小節テノール：不用意に入るとその音に届かない。上から入ることを意識して伸びやかに。

#### ★Sanctus

#### ★Credo

#### ☆Crucifixus ～ 最後まで

今までの注意事項を確認しながら丁寧に練習しました。  
出そびれたところ、音を取り切れていないところは各自復習してください。

#### ★Vier Stuecke

最後の曲から3曲、2パートずつ分けて丁寧に練習しました。

#### ☆Jesu, Redemptor omnium

- ・15小節テノール：Eの音が上がりきっていないので、しっかり上から入る。37小節も同様。
- ・53小節バス：それまで低い音を歌っているが、2拍目のEから次のG-Aに向け、ポジションをチェンジして上を向いた響きで歌う。

## ☆Sancti Dei

- ・6小節テノール：2拍目のFは上から入る。バスと綺麗にオクターヴになることを意識しましょう。
- ・47小節テノール：1拍目はバスとユニゾンなので極めて軽く、ブレスを取って2拍目のFを上から入り直す。

## ☆Surgite sancti

- ・35小節全体：ここは外切りです。次の言葉と繋がっているように、皆で合わせて切りましょう。

### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：1人

### 備考

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年9月19日（水）

### 練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger  
Ave Regina coelorum

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g  
Credo  
Sanctus  
Agnus Dei

### 記事

個人レッスン：中西さん（ソプラノ）  
全体発声練習：30分

#### 内容

##### ★Ave Regina coelorum

- ・11小節テノール：2拍目の入りは裏声のフォームが入っていても、張りのある声で歌う。張りがないと、ピッチが下がってしまう。
- ・56小節テノール：声の中に入れないように。
- ・101小節テノール：ハーモニーを意識して入る。
- ・107小節テノール：入りのタイミングを指揮にしっかり合わせる。
- ・134小節テノール："e"の母音、しっかりと上の方に声帯を広げておく。
- ・146、147小節テノール：2拍目をバスにハモらせることを意識すると歌いやすくなる。
- ・156小節テノール：入りの音（Cis）を前の小節で頭の中でイメージして準備する。
- ・161小節テノール：2拍目のEの音が上ずりがちなので、しっかり通過する。

- ・164小節テノール：Cisの音は明るく。お辞儀しないように。
- ・165小節バス：Gの音が明るく上から入るように。（3～4小節のFis→Gも同様）

## ★Credo

### ☆Et resurrexit

- ・288～308小節："cujus"で始まるフレーズの歌い出しのタイミングが危ないところがあるので、注意する。
  - ・299小節テノール：1拍目裏のDの音がうわずらないように。
  - ・308小節テノール：2拍目からのフレーズは、なるべく柔らかくレガートを表現するつもりで。但し、声は鮮明に。
  - ・315小節～テノール：1拍目は硬い声にならないように（口の中を柔らかく）。2拍目のDがバスのFisとハモるように。
- 317小節2拍目のG、318小節の3拍目のAのピッチに注意。声が上を向くように。
- ・351小節テノール：1拍目のHがフラット気味になるので慎重に（直前のハーモニーではBなので、それを引きずらないように）、そして硬い声にならないように。

### ☆Et vitam venturi saeculi

- ・～387小節男声：調が定まらないので歌いにくい、このメロディに慣れるように。
- ・373小節テノール：Aの音が下にもぐらないように。
- ・374～375小節バス：Eの音が下がり気味になるので気をつける（前の小節でEsを歌っているため引っ張られる）。続くFis、Gのピッチも正確に。
- ・401小節バス：入りのタイミングに注意。先行するテノールを聞いて出るタイミングを覚えておく。
- ・423小節～バス：テンポが遅れないようにリズムを正確に。
- ・445小節ソプラノ：四分音符のリズムとテンポを流さず正確に。（447小節のテノールも同様）

## ★Sanctus

- ・1小節～テノール：出だしは前の曲の最後の音と同じ音であることを確認。そして中くらいの音量で（バスも）。次の音に移る時にゴム紐を伸ばすイメージを持って。ベターッとやるとピッチが下がっていく。
- ・7小節テノール：タイを取り外して歌う。
- ・56小節テノール：Hの音がフラットにならないよう、上向きの声で歌う。
- ・75小節～テノール：Gの音で声が重たくならないように。それ以降の音も軽い声で、上の方の声だけで歌う。

### ☆Benedictus

- ・テノール：優雅な声で歌う。

### ☆Osanna

- ・全音符を歌った後の四分音符、あるいは二分音符でテンポがくるってしまいがちなので、気をつける。
- ・109小節～テノール：出だしの"Osanna"は、音を押してしまうと格好が良くない。もしやるとしたらほんの少し膨らます程度で。
- ・テノール：112小節のような下降形の"osanna"の最後の"a"の母音を乱暴に開けすぎるとピッチが落ちてしまうので注意する。（他のパートも注意）
- ・114小節男声：出だしの音は"D-F-B"の和音を頭の中でイメージして入る。
- ・127小節バス："s"の子音をほんの少し前倒しで歌う。（テンポが遅れがちになるので）

## ★Agnus Dei

- ・"Agnus Dei"：全体的に言葉をもっと柔らかく発音する。（母音も子音も）
- ・"tollis pec-"の歌詞がついている小節の四分音符の間隔が詰まってしまうので注意。言葉の抑揚を考えて歌う。
- ・11～12小節テノール："mun"は細い声で。"di"のCの音はソプラノ、バスのCとぴったり合うように。

### ☆Dona nobis pacem

- ・歌い出しアルト：声が上を向くように。
- ・64小節～バス、76小節～テノール：このような裏拍から入るパターンのリズムの時、間延びしてしまうので、2拍目をしっかり決める。



・87小節テノール：Fの音にシャープがついてしまう人がいます。気をつけましょう。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：小林 椎野 中西  
全員出席

#### 備考

♪発声個人レッスンの予定  
9/26 大久保

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年9月18日（火）

#### 練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger  
Domine in auxilium

Johann Michael Haydn  
Christus factus est

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g  
Kyrie  
Gloria  
Credo

#### 記事

臨時練習 19:00～21:00（スタジオASPIA）

個人レッスン：なし  
全体発声練習：20分

内容

##### ★Domine in auxilium

・最初に25小節のAlleluia 男声の練習をしました。

最初の小節は必ず指揮を見るように。

Alleluia の歌い方は勿論、テンポ感をしっかり掴みましょう。

・23小節テノール：2拍目裏'auferant' のDisが下がらないように。ひとつの言葉として歌う。

##### ★Christus factus est

・1小節アルト：張りのある声で歌い出す。

・2小節ソプラノ：2拍目、As→Gで和音の変化を意識する。

・14小節アルト：歌い出しが曖昧にならないように。pでもはつきりと。

・17小節テノール（30小節も同様）：声が死んでしまわないように。声は常に上向きに。フレーズの最後のハーモ

ニーを決める鍵を握っていることを意識する。

- ・23小節テノール：'ad mortem' Dの音はソプラノとぶつかることをわかって歌う。
- ・31小節バス：'o'の母音。縦に空間がある感じで広がりをもって歌う。
- ・40小節アルト：出だしパートで声を揃えてくっきりと出す。その後下降形で下がりすぎないように。F-Es辺り注意。
- ・54小節全体：前の小節と同じ和音。但し各パートの音（=役割）が変わるので、音をイメージして歌い出す。
- ・57小節内声：2拍目の切り方を外声と揃える。'-tem'の't'の前に出す。（='mor-'の巻き舌を早く処理する）
- ・73小節テノール：歌い出しきっちり決める。アルトの上に行くことを意識する。

#### ★Kyrie

- ・11小節テノール：1拍目の四分音符が走らないように。裏拍をビートにのせる。
- ・44小節アルト：オクターヴの跳躍は正確に、滑らかに。
- ・65小節テノール：Aの音が暗くならないように。

#### ★Gloria

- ・61小節～男声：ここからテノールが先行し、バスが追い掛ける形式。テノールは出だし（61小節、66小節）しっかりと。バスはテノールの音から鳴る和音（62小節：ファラド、67小節：ソシレ）を想像して歌い出す。
- ・112～118小節テノール：116小節辺りでガス欠？116小節からのDの音しっかりと。

#### ★Credo

- ・53,54小節内声：歌い出しの'Et'を短めに切って、フレーズを分けて'in unum'に入る。今は'in unum'の出だしが遅れています。

次の小節の四分音符は't'を言うだけにすると、スムーズに次の言葉に移れると思います。

何度か歌う内にアルトもテノールも元に戻っていた（'Et in'がリエゾンしていた）ので、要注意。

- ・62小節テノール：1拍目裏の四分音符を細く取り、軽く歌う。64小節も同様。
- ・115小節～全体：'consubstantialem'の'ti'はチでもティでもありません。あえてカタカナ標記するなら「ツイ」。個々人でバラバラなので各自確認をお願いします。（'etiam'、'tertia'等も同様）
- ・143小節アルト：'e'の母音は響きを豊かに歌う。
- ・144～146小節テノール：1拍目の四分音符がアルトとぶつかっていることをわかって歌う。
- ・195小節～全体：テンポは変えないが、雰囲気を変える。出だしのテノールは落ち着いて出てください。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大庭 佐藤 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：3人

#### 備考

♪発声個人レッスンの予定  
9/19 中西(S)  
9/26 大久保

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年9月12日（水）

練習箇所

## 記事

個人レッスン：椎野さん

全体発声練習：30分

## 内容

★全体を通して以下の注意がありました。

- ・自分の声、そして周りの声をよく聞き、融合しているかどうか、すべての音符について周りに気を配って歌う。
- ・しなやかな声を使って、抑揚がつくように。一本調子にならないように。
- ・力まずに。一生懸命ではなく、普通に歌いましょう。
- ・語尾は押さないように。収める感じで。
- ・自分の出している声ハーモニーの中でどういう役割をしているか、考えながら歌う。
- ・男声：ピッチが落ちないよう軽い声で。周りの声が聞こえてくるような心持ちで。
- ・楽譜を見ている時でも、自分の声と周りの声が出来上がっているか、気を配る。
- ・母音によって硬くなって、響きが落ちやすいということもあるので、母音の響きを正しく出来るように。
- ・地声を出さない。ピッチが下がるばかりでなく、自分の声しか聞こえず、他のパートの動きと合わせられなくなる。

★Agimus tibi gratias

- ・4小節～、39小節～：「omnipotens」はアクセントが「ni」なので、1拍目は強くせず、細いところから入る。

★Jesu, Redemptor omnium

- ・44小節テノール：上の響きで入る。下からずり上げないように。

★Ave Regina coelorum

- ・1小節：裏声からつながってきた声で入る。固めた声で入らないように。
- ・107小節テノール：指揮とタイミングを合わせて入ること。ピッチも合わせましょう。

★Tenebrae factae sunt

- ・最後の小節のハーモニーを揃える。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：翁長 大庭 柿沼

バス：小林 椎野 中西

全員出席

## 備考

♪発声個人レッスンの予定

9/19 中西(S)

9/26 辻村

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年9月5日（水）

練習箇所

Johann Ernst Eberlin

Vier eucharistische Motetten

Benedicam Dominum

O sacramentum

O felix caritas

Agimus tibi gratias

Johann Ernst Eberlin

Missa in contrapuncto in g

Kyrie

Gloria

## 記事

個人レッスン：柿沼さん

全体発声練習：30分

### 内容

★全体を通して以下の注意がありました。

- ・楽譜から目を上げ、他のパートをよく聞いてアンサンブルしましょう。
- ・特に楽曲に入る最初の小節は指揮を必ず見て流れに乗って歌い出す。
- ・丁寧にそつと出すことは大切。但し、それと声に響きが無くなることは別。響きが無くなる＝死んでしまう。そうならないよう、常に美しい発声で声に響きを持たせる。

### ★Benedicam Dominum

- ・14小節全体：'meo' は語尾になるように収める。次のブレスのために息を吐き出すと、どうしても語尾の'o'が大きくなってしまう。横隔膜を下げたまま息を取るように。
- ・後半部分のハーモニーに注意。外に出た自分の声と周りの声を聴くよう意識して歌う。
- ・初めの和音がどんなハーモニーになるのかをイメージしてから声を出すように。
- ・36～46小節に出てくる'laetentur' (喜ぶ) には言葉の意味に則して生き生きと動く。
- ・51小節アルト：1拍目Cの音は響きを明るく。輝いた声で。
- ・52小節テノール：Fが上がりきっていない。バスとオクターブであることを意識する。

### ★O sacramentum

- ・出だし全体：特に男声が乗り遅れるので注意。
- ・10小節全体：3拍目のハーモニーをきちんと作ってから次のフレーズに入る。アルトのEの音をクリアに。
- ・14小節、18小節下3声：3拍目の和音を予め想像してから入る。歌い出しの'o'を丁寧に。
- ・22、23小節下3声：1拍目裏'lus'の和音を決める。
- ・27小節下3声：'in'の発音で音程が崩れないように。

### ★O felix caritas

- ・Allelujaの発音：言葉に相応しく、高らかに神様を讃えましょう。
- 'l'が2つついている ('Al-le-') 且つアクセントは第2音節です。
- なので、「アーレー」ではなく、アは軽く短く終え、すぐに'l'を発音、長母音で'-le-'を長く発音する。
- あえて表記すると「ア Lレー」となるはず。きちんと'l'を2つ言うこと。
- ・1小節アルト：出だしの'O'ハリのある声で。
  - ・14小節テノール：4拍目裏のC→Hの16分音符を正確に。Cを高め取るのがポイント。

### ★Agimus tibi gratias

- ・8小節アルト：3拍目'potens'は急がない。ソプラノと聴き合いながら歌う。
- ・9小節テノール：バスを聴きながら一緒に動く。
- ・13小節下3声：ハーモニーを想像してから入る。32小節も同様。

- ・21小節バス：2拍目Dの音はテノールとユニゾンになる。裏声を混ぜた発声で溶け込むように。
- ・36小節～全体：また冒頭のメロディに戻ることをわかって歌う。

### ★Kyrie

- ・7小節アルト：2拍目Dの音が落ちすぎる。その前のEの音がフラット気味になっているので注意。
- ・29小節～全体：ここからのテーマで1オクターヴ上がる場所（例：ソプラノ32小節D）は鮮明な響きでクリアに通過する。上がり損ねないように。
- ・33小節～バス：この上昇する音形では徐々に裏声に変えていく。
- ・51小節テノール：ここから転調した音楽を作っていく。ナチュラルの音を意識して高めに取る。

### ★Gloria

- ・Intonationの歌い方（一番上を歌います）：'excelsis'は3連符のように歌う。
- ・途中まで歌ったところで時間切れとなりました。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
 アルト：大久保 大友 大庭 濱野 堀江  
 テノール：大庭 柿沼 水野  
 バス：翁長 小林 椎野 中西  
 欠席：1人（アルト）

#### 備考

♪発声個人レッスンの予定  
 9/12 椎野  
 9/19 中西(S)  
 9/26 辻村

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年8月29日（水）

#### 練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger  
 Ave Regina coelorum  
 Domine in auxilium  
 Tenebrae factae sunt

#### 記事

個人レッスン：大庭(T)さん  
 全体発声練習：25分

#### 内容

・今回も「自分の声、周りの声、を聞く。どんなハーモニーかを想像する。生き生きとした響きで。」ということ全体的に指摘されました。

### ★Ave Regina coelorum

- ・32小節～アルト：出だしの音は、クリアな響き、美しい"e"の母音をイメージして、そこに息を重ねるようにして

歌う。続く2拍目は1オクターブ下がるので、裏声と表声を上手に支える。続くフレーズもはっきりとした響きで歌う。内向きにならないように。

- ・38小節テノール：出だしの音はよくイメージを作っておいて入る。
- ・56小節テノール：Aの音に#がつかないように
- ・98小節テノール：2拍目は小さな声でもはっきり出す。次の和音への橋渡しという役割を持っている。
- ・107小節～アルト：小さな声でも、はっきりとした響きで歌う。
- ・120～小節アルト：h-mollに転調したことを意識しないとAisのピッチが甘くなり、結果、フレーズの最後までピッチが下がってしまう。調性をしっかり捉え、なおかつフレーズの最後の"a"の母音が綺麗に響くように。
- ・137小節～アルト：次の音の立ち上がりが曖昧にならないように。はっきりといい声で立ち上がるように。
- ・156小節テノール：入りの音は先行するソプラノをガイドにする。そして引き続きソプラノとハモらせるつもりで歌うと歌いやすい。
- ・165小節：ハーモニーが生き生きとした響きで、鮮やかに決まるように。アルトはいい響きを保つように。

#### ★Domine in auxilium

- ・暗譜しなくてもいいが、楽譜から目を離して前を向いて、声を外に向かって歌う。内向きになると、声がしょぼくになってしまう。
- ・1小節テノール：「Domine」の"mi"の発音がくぐもらないように、はっきりと。
- ・2～3小節アルト：はっきりした響きで歌う。（ピッチが落ちている）
- ・1～5小節：「ソプラノ」対「下3パート」という構成になっているので、下3パートの一番上であるアルトは、しっかり主張する。
- ・5小節～：「confundantur」はテヌート気味で1音ずつはっきりとした口調で。
- ・8小節アルト：3拍目「クヴェ」ピッチが下がらないように、明るい響きで。
- ・25小節バス：出だしのテンポ感に注意。間延びしないように。
- ・25小節テノール：バスのメロディを認識して歌いだす。
- ・36～38小節テノール：それぞれの「alleluya」の入りの音はソプラノからつながっていることを意識して歌う。また、"u"の母音の響きが悪いと音が下がって聞こえるので気をつける。
- ・55小節ソプラノ：バスが2拍目から入りやすいように、1拍目をしっかり保って、バスに橋渡しをする。
- ・55小節～バス：間延びしないように。引き締まった感じでリズムに。

#### ★Tenebrae factae sunt

- ・全体的に劇的な表現で。
- ・1～31小節：いきなり物語のクライマックスの始まりの部分に投げ込まれた心持ちで歌い出す。緊迫した状況描写を作っていく。但し、理性を持って、力まず鮮明な声で。
- ・7～13小節：半音ずつハーモニーが変わっている。次の和音をイメージして歌っていく。
- ・17小節：ハーモニーをイメージしてから歌う。
- ・21～22小節アルト：響きが落ちやすいので気をつける。母音の響きを鮮明に、そして輝かしい声で。
- ・29小節アルト：全体のハーモニーの響きを頭の中でイメージする。鮮明な響きで歌う。
- ・32小節～：イエスが天に向かって叫んでいる場面。そのことをイメージして歌う。
- ・38小節～52小節：ハーモニーが難しいので、よく理解して歌う。
- ・48小節～52小節：イエスの頭が垂れ下がっている状態。但し、くすんだ声にならないように。輝きのある声で。
- ・53小節～80小節：イエスの魂が天に召される場面。
- ・116小節～：音が低くなって歌いにくい、クレッシェンドからフォルテにする。ここは、地震を描写しているところ。マタイ受難曲あるいはヨハネ受難曲の地震を描写しているところをイメージして歌う。
- ・144小節～テノール：Gの音が続くが、拍によって役割が違うことを意識する。鮮明な響きで。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼 水野

バス：翁長 椎野 中西

欠席：1人

## 備考

♪発声個人レッスンの予定

9/5 柿沼

9/12 小林

9/19 中西(S)

9/26 椎野

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年8月22日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin

Missa in contrapuncto in g

Sanctus

Agnus Dei

Johann Georg Albrechtsberger

Ave Regina coelorum

Domine in auxilium

## 記事

個人レッスン：堀江さん

全体発声練習：30分

内容

★全体的に、前回の練習と同じく以下の注意点があげられました。

- ・フレーズの歌い出しは、あらかじめ美しい声をイメージして入る。
- ・他のパートをよく聞き、アンサンブルする。他のパートとの縦の線を意識し、一緒に動く。他のパートと合わさった時にどんな響きがするか、常に興味をもつ。
- ・声がかくぐもらないように。裏声をベースに、且つクリアで鮮明な響きで。

★Sanctus

- ・【楽譜訂正】7小節テノール：1拍目の'-ctus'のDの音は1オクターヴ上にしてください。2拍目と同じ音になります。
- ・40～46小節テノール：Dの音がだんだん下がってしまうため、他のパートとのハーモニーを意識しながらピッチを保つ。

★Agnus Dei

- ・2小節女声：オクターヴを意識して合わせる。
- ・13～14小節アルト：ソプラノに対してどういう響きがするか、予め想像して入る。
- ・26小節バス：入るFの音はテノールのGとぶつかるので、意識して入る。
- ・36小節全体：新しい響きを感じる。特にアルトのEsは生き生きと。
- ・106小節テノール：1拍目の裏はFナチュラルです。#がついているように聴こえるので正確に。138小節バスのCも同様。
- ・113小節アルト：ソプラノとのハーモニーを意識する。ピッチが落ちすぎないように。

★Ave Regina coelorum

1回通しました。

・superの発音：'u'の母音は以前からの指摘の通り、潰れた母音にならないように。また、語尾の'erもドイツ語風に。あまりはつきり「エ」と作り過ぎない。

★Domine in auxilium

1回通しました。

出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼 水野  
バス：椎野 中西  
欠席：2人  
ソプラノ黒田さんをご都合により残念ながら休団となりました。

備考

♪発声個人レッスンの予定  
8/29 大庭(T)  
9/5 柿沼  
9/12 小林  
9/19 中西(B)  
9/26 椎野

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年8月15日（水）

練習箇所

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g

記事

個人レッスン：大庭（アルト）さん  
全体発声練習：40分

内容

- ★全体的に、前回の練習と同じく以下の注意点があげられました。
- ・フレーズの歌い出しは、あらかじめ美しい声をイメージして入る。
  - ・他のパートをよく聞き、チェックしながら歌うこと。（他のパートの音符、言葉の発音のタイミングとぴったり合うように）
  - ・声がかくぐもらないように。鮮明な響きで。
  - ・自信がない箇所は途端に声が悪くなる。一刻も早く音楽をつかむ、覚えること。

★Kyrie

- ・「eleison」"i"が独立して音符に付いている時以外は、二重母音なので「イ」の母音を表さない。
- ・声がかくぐもらないように。鮮明な響きで。



特に注意するところ（33小節～アルト、57小節2拍目バス、64小節テノール）

- ・29小節～テノール：裏声の響き主体の声で歌いだす。（但し、弱々しくなく、生き生きとした）
- ・"e"の母音を美しく。歪まないように。素直に発音する。（33小節～アルト、60小節テノール）
- ・64小節テノール：低音から高音に入る前に、裏声の状態が出来上がっているかを意識する。

#### ★Gloria

- ・発音がところどころローマ式になってしまう時があるので注意する。
- ・なるべくシンプル（まっすぐ伸びて次の音につながるよう）に歌う。（声に抑揚がつくのはいいのだが、ワンパターンになってしまうとしつこく感じる）
- ・96小節アルト：「Gratias」"ti"が「チ」にならないように。
- ・106小節～テノール：上の響きで鮮明に。
- ・195小節～男声：「suscipe」"s"の子音に続く"u"は平べったくなりやすいので、丸くなるように気をつける。
- ・297小節～：「Amen」の4分音符の部分の音型のように音が飛ぶ時は、軽い喉で。ほんの少し"H"を入れると歌いやすくなる。

#### ★Credo

- ・速いテンポで通した後、ゆっくり丁寧に通しました。
- ・256小節～：「tertia」"ti"は「ツイ」です。

#### ★Sanctus

- ・通して歌いました。
- ・1小節～テノール：くぐもらないように。鮮明なクリアな響きで。

#### ★Agnus Dei

- ・通して歌いました。

### 出席者

ソプラノ：辻村 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼 水野  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：3人

### 備考

♪発声個人レッスンの予定  
8/22 堀江  
8/29 大庭(T)  
9/5 柿沼  
9/12 小林  
9/19 中西(B)  
9/26 椎野

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年8月11日（土）

### 練習箇所

Johann Michael Haydn

Christus factus est  
Surgite sancti  
Sancti Dei  
Jesu, Redemptor omnium

Johann Georg Albrechtsberger  
Tenebrae factae sunt  
Ave Regina coelorum  
Domine in auxilium

Johann Ernst Eberlin  
Vier eucharistische Motetten  
Benedicam Dominum  
O sacramentum  
O felix caritas  
Agimus tibi gratias

## 記事

個人レッスン：中西（バス）さん、翁長さん  
全体発声練習：40分

### 内容

全体として、以下の点を注意しながら練習しました。

- ・美しく歌った声を想像してから歌い出す。
- ・次のハーモニーをいつも予測して、考えながら声を出す。単なる通過点にしてはダメ。
- ・母音の違いで響きがかくぐもったりしないように。どの母音でも常にクリアで鮮明な響きを意識する。
- ・和音の構成が異なると、同じ音でも持つ役割が変わる。自分がどの役割で音を出しているかを意識する。

### ★Christus factus est

- ・31小節～バス：膨らみをつけるのは良いが、意図的につけると母音の音質が変わってNG。自然な感じで抑揚をつけてフレーズを作る。
  - ・Crucisのuの母音に注意。粗っぽくならないように。
  - ・61小節～男声：ロングトーンしながら良く自分の声を吟味すること。
- 棒歌いにならないように抑揚をつけて歌うが、妙な余分な節回しをつけず、シンプルに。
- ・57小節全体：最後のmの響きの時間を多く持つ。

### ★Surgite sancti

- ・4～5小節全体：膨らみをつける。
- ・5小節バス：DeiはDeに重みがあり、次の小節の'I'は最も軽く。そして、1拍目裏から新たなフレーズを歌い始める。deは軽く歌う。
- ・6小節～全体：deは長母音ではないので注意。
- ・34小節全体：'-res'は外切りにする。次のin pacem と文章は繋がっているのに、別物にはしない。言葉として繋がるイメージで（特にソプラノ）。

### ★Sancti Dei

- ・冒頭、次の音のハーモニーを常に考えて予測して歌う。
- ・15小節、23小節：男声が後から入る2拍目のハーモニーを決める。
- ・36小節～バス：uの母音に注意。音の高さが変わっても突出するところがないように。

### ★Jesu, Redemptor omnium

- ・6小節バス：音を膨らませた時に音色が変わらないように。

・33小節～全体：八分音符が滑って走らないように。全音符のパートは細かい動きのパートを良く聴いてアンサンブルする。

★Tenebrae factae sunt

- ・8小節～全体：8,10,12,14小節のハーモニーを決める。特に12小節は聴き合って注意深く。
- ・29小節：'magna'の'a'を明瞭に。
- ・35小節：ハーモニーを意識する。
- ・107小節：'summo'の'u'を深く。

★Ave Regina coelorum

1回通しました。

★Domine in auxilium

1回通した後、バスの25小節の入りを練習しました。

★Vier eucharistische Motetten

各曲1回ずつ通しました。

出席者

ソプラノ：辻村 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：柿沼 水野  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：4人

備考

♪発声個人レッスンの予定  
8/15 大庭(A)  
8/22 堀江  
8/29 大庭(T)  
9/5 柿沼  
9/12 小林  
9/19 中西(B)  
9/26 椎野

冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年8月1日（水）

練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger  
Tenebrae factae sunt

Johann Ernst Eberlin  
Vier eucharistische Motetten  
Agimus tibi gratias  
Missa in contrapuncto in g  
Kyrie

Gloria  
Credo  
Sanctus  
Agnus Dei

## 記事

個人レッスン：大久保さん  
全体発声練習：30分

### 内容

#### ★Tenebrae factae sunt

音の強弱など、表現について細かく練習しました。

- ・3小節からのクレッシェンドをもう少し充実させて、またmpに戻す。
- ・8小節からのクレッシェンドは17小節の入りに向かっていく。
- ・32小節～52小節：劇的に表現するように書いてある。  
「ut quid me」の"me"は長母音です。
- ・53小節～79小節：molto legatoで歌い出し。62小節～67小節はエコーになっている。71小節で盛り上がり、だんだん収めていく。
- ・101小節：一旦少しボリュームを落としたところから始めて続くクレッシェンドを効果的にする。
- ・115小節～：クレッシェンド。
- ・141小節～：2拍目からクレッシェンドしてf(フォルテ)。最後は収める。

#### ★Agimus tibi gratias

- ・2回通しました。

#### ★Sanctus

- ・ゆっくりのテンポ、早いテンポで練習しました。

#### ☆Osanna

- ・同じくゆっくりのテンポ、早いテンポで練習しました。  
早いテンポでは、4分音符のフレーズで遅れがちになるので、繰り返し練習しました。

#### ★Agnus Dei

- ・13小節アルト：先行するソプラノをよく聞いて入りましょう。

#### ☆Dona nobis pacem

- ・ゆっくりのテンポ、早いテンポで練習しました。
- ・50小節アルト：ピッチが下がらないように。

#### ★Kyrie

- ・通し練習、及び部分練習をしました。

#### ★Gloria

#### ★Credo

- ・各曲1回ずつ通しました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼 水野  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：2名（ソプラノ、バス各1名）

## 備考

♪ 発声個人レッスンの予定

8/8 辻村

8/11 中西(S)、翁長

8/15 大庭(A)

8/22 堀江

8/29 大庭(T)

9/5 柿沼

9/12 小林

9/19 中西(B)

9/26 椎野

8月11日の臨時練習：個人発声練習は12時30分から。全体練習は13時30分からです。

♪ コンサートのお知らせ

明治学院大学グリークラブ創立70周年記念公演

J.S.バッハ クリスマスオラトリオ BWV248

11月24日（土） 13時15分開演（12時15分開場） 東京芸術劇場コンサートホール

指揮： 水野 克彦

テノール： 望月 哲也（福音史家）

ソプラノ： 星川 美保子

メゾソプラノ： 日野 妙果

バス： 森野 光生

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年7月25日（水）

### 練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger

Tenebrae factae sunt

Ave Regina coelorum

Domine in auxilium

Johann Ernst Eberlin

Vier eucharistische Motetten

Benedicam Dominum

O sacramentum

O felix caritas

### 記事

個人レッスン：濱野さん

全体発声練習：30分

内容

★Tenebrae factae sunt

2回通しました。

### ★Ave Regina coelorum

- ・4小節バス：Gの音を上から入る。ずり上げないように。軽い声で歌うようにする。
- ・5小節全体：「coelorum」"oe"の綴りはo-ウムラウトで発音する。
- ・12小節テノール：DからHの音へ下りた時に下がりすぎない。バスのGとハモリを意識する。
- ・13小節バス：同じようにGからEへ下りた時に下がりすぎない。
- ・15小節～全体：「angelorum」"ng"は鼻濁音で。
- ・26小節バス：ミ-ソ#-シの和音を想像しながら入る。上から入ることを意識して丁寧に。
- ・56小節アルト：Cis-Fisの上昇形。Fisは上から入り、声帯を閉じてしっかりと。59小節のFisも同様。
- ・56小節全体：2拍目表のFisとAの和音をきっちり決める。荒っぽい音にならないように。
- ・68小節～全体：「Super」"u"の母音が日本語っぽくならないように。
- ・75小節テノール：Cisの音を高めに取る。
- ・95小節バス：Dの音を上から入る。
- ・98小節テノール：2拍目のCを上から入る。ドミソの和音を意識する。
- ・113小節テノール：2拍目のA（ナチュラル）は前の小節2拍目のAis（ラ#）と違うことを意識する。バスのFisとハモらせる。
- ・119小節アルト：テノール同様、上ずらないよう注意。ソプラノ（Fis）とのハモリを意識する。

### ★Domine in auxilium

- ・8小節アルト：「qui～」声を揃えてしっかりと。12小節の「in auxilium」も同様。
- ・25小節バス：Allegro のテンポをイメージし、指揮を見て歌い出す。
- ・25小節～全体：「Alleluja」のアクセントは"-le-"です。（発音も長母音の"e"です）  
"Al-le"のLがダブルになっていることを活かして跳ねる感じで"-le-"を長めに歌う。
- ・55小節～バス：バスだけ四分音符の音楽。pを意識して柔らかくレガートで歌うが、間延びしないように。下のFisからpで上のCisに上手く切り替えること。
- ・60小節バス：1拍目は短く処理して2拍目を早くから準備してfでバンと歌い出す。遅れがちになるので注意。

### ★Benedicam Dominum

- ・54小節～バス：アルトとのハモリを意識して歌う。
- 56小節～57小節のC→Fis→Gのピッチに注意。この上に和音が出来上がるので正確に。
- ・54小節アルト：G→Cに5度下りるところのピッチに注意。下がりすぎない。59小節も同様。
  - ・58小節バス：3拍目Hはナチュラルなので注意。下がりすぎない。
  - ・61小節バス：1拍目Aは上から入る。3拍目Fはナチュラルなので注意。
  - ・62小節バス：3拍目のEも下がりやすいので注意。テノールとオクターブを意識する。

### ★O sacramentum

### ★O felix caritas

- ・各曲1回ずつ通しました。

### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼 水野  
バス：翁長 小林 椎野 中西

全員出席

### 備考

♪発声個人レッスンの予定

8/1 大久保

8/8 辻村

8/11 中西(S)、翁長

8/15 大庭(A)  
8/22 堀江  
8/29 大庭(T)  
9/5 柿沼  
9/12 小林  
9/19 中西(B)  
9/26 椎野

冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年7月18日 (水)

### 練習箇所

Johann Michael Haydn  
Christus factus est  
Surgite sancti  
Sancti Dei  
Jesu, Redemptor omnium

### 記事

発声個人レッスンは黒田さんでした。  
全体発声は20分。

#### 内容

##### ★Christus factus est

- ・1小節アルト：歌い出しの音を吸い込む。(スムージーを吸い込むように)
- ・9小節バス：3拍目のEsがテノールのEsとピッチが合うように。
- ・15小節テノール：DからBに下がる時、(少しポルタメントを付けてもいいので)ピッチが下がらないように気をつけて入りましょう。
- ・31小節バス：力まず流れ出す。
- ・37小節バス：Asの音がぶれないように。"t"の発音が喉にへばりつかないように気をつける。
- ・58小節アルト：直前の休符でGの音を吸い込む。そして響きを上に置く。
- ・64～73小節アルト：ソプラノをよく聞きながら歌いましょう。フレーズの最後までピッチが下がらないように。
- ・78小節アルト：2拍目の"u"の母音でピッチが下がらないように。軟口蓋を上げて歌いましょう。

##### ★Surgite sancti

- ・1小節アルト：「Sur」と「gi」を別々にして歌うとGのピッチが安定しやすい。
- ・4小節バス：Aの音が揃うように。
- ・6小節バス：アルトのFとピッチが揃うように。
- ・8小節アルト：上の響きで入るように。
- ・11小節アルト：Aのピッチが揃うように。
- ・12小節アルト：Aの音に入る直前でボリュームを一旦絞って、細いところから入る。(17小節のBも同様)
- ・13小節アルト：Gの音は固めず上の広がりのある響きで。18小節のGも同様。
- ・21小節アルト：Dの音は表声にしない。また入りが早い傾向があるので、走らないように。
- ・28小節アルト：Bの音。ピッチを合わせようと意識して入る。上から入る。
- ・32小節バス：1拍目Esになりそうなので気をつける。
- ・37小節テノール：上から入る。

・43小節テノール：GがアルトのDと5度になるように。

#### ★Sancti Dei

- ・2小節：2拍目の"i"の発音を締めすぎないように。
- ・7小節アルト：1拍目、上の響きで。（口の中の部屋を大きくして）
- ・23小節男声：入りのピッチを気をつける。
- ・35、39小節アルト：天井を上げて上の響きで。

《発音》

- ・necessitatibusは「ネツェスイターティブス」。

#### ★Jesu, Redemptor omnium

- ・1小節アルト：2番の歌詞、上から入る。
- ・3小節アルト："u"が浅くならないように。
- ・3、4小節アルト：ソプラノと3度のハーモニーが決まるように。8、9小節男声も同様に。
- ・9小節バス：付点のリズムを合わせる。1番の歌詞では4分音符の所に"to"がくるように。
- ・27小節テノール：Hのピッチが揃うように。
- ・41小節アルト：Gのピッチが揃うように。
- ・44小節テノール：ソプラノの流れにつなげるようにして入る。
- ・53小節バス：Eの音はテノールが出しているEの音に入るように。1番の歌詞では発音が災いしてぶれたりしないように。
- ・54小節バス：テノールのDと5度のハーモニーが決まるように。
- ・59小節バス、テノール、アルト：2拍目の音に入った時、5度のハーモニーが崩れないように。

《発音》

- ・praesulumの"su"は軽く濁る。
- ・confitentiumの"ti"は「ツイ」。

#### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼 水野  
バス：翁長 小林 中西  
欠席：1名（バス）

小澤さんは都合により退団されました。

#### 備考

発声個人レッスンの予定  
7月25日・・・濱野  
8月11日・・・翁長、中西（ソプラノ）

■ [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年7月11日（水）

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g  
Kyrie



Gloria  
Credo

Johann Michael Haydn  
Christus factus est  
Surgite sancti  
Sancti Dei  
Jesu, Redemptor omnium

## 記事

発声個人レッスンは平石さんでした。  
全体発声は25分。

内容

### ★全体

- ・発音："oe"の綴りはo-ウムラウトで発音する。(ex. Gloria 108小節「coelestis」、Credo 8小節「coeli」etc.)
- ・一本調子でなく、言葉の抑揚を常に意識して歌いましょう。男声（特にバス）は軽い声で。野太くなってしまうので注意。
- ・「Et（接続詞）」「cum（前置詞）」「Qui（関係代名詞）」などは軽く短く切ってアウフタクトのように。次の言葉と分ける意識で歌いましょう。

### ★Kyrie

- ・「Kyrie」の"Ky"はu-ウムラウト、「eleison」の"s"は軽くにごります。
- ・7小節アルト：下降形の四分音符は上の響きを保ってピッチが下がらないように。

### ★Gloria

- ・シラブルが複数ある単語は語尾を歌いすぎないように注意。
- 例：「terra」（2小節～）「bonae」（14小節～）「Filius」（133小節～）
- ・71小節～「glorificamus」の歌い方：  
"ca"の初めの四分音符は軽く、次の二分音符を長く歌う。
  - ・99小節～女声：「propter magnam」慌てず、優雅に。言葉のアクセントに合わせて波打つように。
  - ・113小節～男声：四分音符を軽く歌う。バスはバリトンのような声で。

### ☆Qui tollis

- ・「miserere」：四分音符が煩くならないように。アクセントのある"re"に重みを置く。
- ・「suscipe」："u"の母音が日本語の「ウ」にならないように。特に男声。
- ・201小節で文節の区切りなので、一旦取めて202小節から新たに始めます。
- ・「Sancto spirit」：アクセントの音をテヌート気味に歌う。滑って逆に走る傾向があるので注意。

### ★Credo

- ・195小節：「Et incarnatus est」からテンポを落とします。
  - ・195～203小節「Et incarnatus est」がひとつのフレーズ。「est」が取って付けたようにならないように。
- 204～214小節「de Spiritu Sancto ex Maria Virgine:」までがひとつのフレーズ。ここで区切りをつけて次の「Et homo～」に入る。

### ☆Crucifixus

- ・発音：「Crucifixus」の語頭の"C"は日本語の「ク」にならないように。
- ・発音：「etiam」の"e"は長母音ではなく「エ」と発音します。

### ☆Et resurrexit

- ・3拍子の音楽は大きく1小節を1拍のイメージで捉えて軽く歌う。

- ・288小節～：「cujus」は「クーユス」ではなく、間に「イ」を入れる。
- ・313小節バス：2拍目裏のFisがFになってしまうので正確に。
- ・351小節テノール：1拍目のHは上から入る。

☆Et vitam venturi saeculi

- ・「Et」は短く、その後の「vitam」は二分音符を歌い直さず、ひとつの言葉に聴こえるように。
- ・407小節～「Amen」：八分音符の前の二分音符（例：Sop. 408小節1拍裏）で歌い直すとリズムに乗り切れず遅れる原因となります。流れるように歌いましょう。

★Johann Michael Haydn

各曲1回ずつ通しました。

出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
 アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
 テノール：大庭 小澤 柿沼 水野  
 バス：翁長 小林 椎野 中西  
 欠席：1名（ソプラノ）

備考

発声個人レッスンの予定

7月18日・・・黒田

7月25日・・・濱野

8月11日・・・翁長、中西（ソプラノ）

♪ コンサートのお知らせ

三菱UFJ銀行合唱団第8回定期演奏会

J.S.バッハ ヨハネ受難曲 BWV245

11月10日（土） 18時開演（17時30分開場） 紀尾井ホール

指揮： 水野 克彦

テノール： 大島 博（福音史家）

バス： 萩原 潤（イエス）

ソプラノ： 星川 美保子

アルト： 谷地 晶子

バス： 浦野 智行

当団の7人のメンバーが出演します。

冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年7月1日（日）

練習箇所

全曲

Johann Michael Haydn

Christus factus est

Surgite sancti  
Sancti Dei  
Jesu, Redemptor omnium

Johann Georg Albrechtsberger  
Tenebrae factae sunt  
Ave Regina coelorum  
Domine in auxilium

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g  
Vier eucharistische Motetten

## 記事

発声個人レッスンは大友さん、佐藤さんでした。  
全体発声は40分。

### 内容

前回と同じように1列の輪になって練習しました。

#### ★Missa in contrapuncto in g

##### ☆Credo

- ・44～67小節テノール：ピッチの確認をしました。
- ・77～85小節バス：「de」は長母音ではなく「デ」。「verum」の「e」は長母音です。79小節2拍目のEsのピッチが曖昧になる時があるので注意。
- ・94小節～アルト：「genitum」の「tum」のピッチが決まるように。
- ・116小節～バス、テノール：「consubstantia」の「su」の母音が浅くならないように。「ti」が「チ」にならないように。

##### ☆Sanctus

- ・76～80小節アルト：テノールとのハーモニーを意識する。79小節のFはパート内で音がばらけているのが目立ちます。

##### <Benedictus>

- ・「venit」の「e」は長母音。
- ・92小節テノール：2拍目Bのピッチが下がらないように。
- ・102小節テノール：2拍目裏のEsのピッチが上がりきっていない時があります。

##### <Osanna>

- ・114小節アルト：Bに上がりきっていない時があるので注意。（119小節、141小節も同様）

#### ★Christus factus est

- ・58小節アルト：歌い出しの「mo」は、響きが浅くならないように、部屋を作って準備する。

#### ★Surgite sancti

- ・46小節テノール：Aの音が、ソプラノのGに引っ張られないように。

#### ★Sancti Dei

- ・35小節、39小節アルト：パート内で音を合わせましょう。

#### ★Jesu, Redemptor omnium

- ・通しました。

以下の曲を通して歌いました。

#### ★Tenebrae factae sunt

#### ★Ave Regina coelorum

（後からもう一回通しました。）

#### ★Domine in auxilium

★Vier eucharistische Motetten

★Missa in contrapuncto in g

☆Kyrie

☆Gloria

☆Agnus Dei

最後にドイツ語でHappy Birthdayを歌いました。

Zum Geburtstag viel Glück Liebe Junko !

#### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼 水野

バス：椎野 中西

欠席：3名（テノール1名、バス2名）

安岡さんは、都合により退団されました。

#### 備考

発声個人レッスンの予定

7月11日・・・平石

7月18日・・・黒田

7月25日・・・濱野

8月11日・・・翁長、中西（ソプラノ）

・定期演奏会のチケット及び、負担金等についての資料が配布されました。

資料の内容についての不明点は、役員に確認してください。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年6月27日（水）

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin

Missa in contrapuncto in g

Credo

#### 記事

発声個人レッスンは椎野さんでした。

全体発声は50分。

内容

1列の輪になって全体が見渡せるようにして練習しました。

★Credo

- ・「descendit」の"cen"は「ツェン」です。「チェン」にならないように。
- ・全体的に"u"の母音が潰れないように注意。例えば「factus」が「ファクチュス」と聞こえる時があります。
- ・204小節：「de」は長母音ではありません。「デ」です。

☆Crucifixus

- ・225小節バス：Gの音が下がりすぎないように。

☆Et resurrexit

- ・バス：「resurrexit」の"su"の母音が浅くならないように。
- ・316小節バス：Aの音が下がりないように。
- ・321小節バス："ce"は長母音です。
- ・351小節テノール、バス：「Confiteor」は軽く、「baptisma」は抑揚をつけて。

☆Et vitam venturi saeculi

- ・423小節～429小節バス：テンポが遅れがちなので周りをよく聞きつつ歌うように。

最後にCredoを全曲通して歌いました。（Intonationは2段目）

出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 安岡  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼（水野）  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：1名（テノール）

備考

発声個人レッスンの予定  
7月1日・・・大友、佐藤  
7月11日・・・平石  
7月18日・・・安岡  
7月25日・・・濱野

冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年6月20日（水）

練習箇所

Johann Ernst Eberlin  
Missa in contrapuncto in g  
Kyrie  
Gloria  
Vier eucharistische Motetten

Johann Michael Haydn  
Jesu, Redemptor omnium

Johann Georg Albrechtsberger  
Domine in auxilium  
Ave Regina coelorum  
Tenebrae factae sunt

記事

発声個人レッスンは大庭さん(テノール)でした。  
全体発声は25分。

内容

★Kyrie

若干早めのテンポで練習しました。

- ・7小節アルト：「e」の発音、（下顎を？）前の方に出す。  
1拍目裏の音ピッチが下がらないように。

★Gloria

こちらも若干早めのテンポでも練習しました。

一本調子でなくメロディを味わいながら歌いましょう。エネルギーを分散する。

- ・アルト：3小節から始まるフレーズ、22小節から始まるフレーズのピッチが下がらないように。
- ・6小節アルト：2拍目「mi」は天井の方に響きを持ち上がるように。
- ・117～118小節テノール：ピッチが下がらないように。（事前にどこかで息を吸う）
- ・112小節～バス、テノール：連続する4分音符はなるべく軽く動く。（テンポが遅くなりがち）

☆Qui tollis

ここからは少し落ち着いたテンポで始まる。239小節からテンポをアップする。

- ・158小節2拍目：アルトとテノール、ハモるように。
- ・195小節から始まる3重唱：男性はアルトを意識して。アルトはもう少し出るように。  
フレーズ出だしの「su」はなるべく上から入るように。

★Jesu, Redemptor omnium

一本調子にならないように抑揚をつけて。

★Domine in auxilium

1回通した後、ゆっくりのテンポで練習。25小節からは早いテンポで練習。

★Ave Regina coelorum

2回通しました。

★Tenebrae factae sunt

1回通しました。

★Vier eucharistische Motetten

1回通しました。

出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：3名（ソプラノ、テノール、バス各1名）

備考

発声個人レッスンの予定  
6月27日・・・椎野  
7月1日・・・佐藤、大友  
7月11日・・・安岡  
7月18日・・・平石  
7月25日・・・濱野

2018年6月13日 (水)

## 練習箇所

Johann Michael Haydn  
 Christus factus est  
 Surgite sancti  
 Sancti Dei  
 Jesu, Redemptor omnium

Johann Ernst Eberlin  
 Vier eucharistische Motetten  
 Benedicam Dominum  
 O sacramentum  
 O felix caritas

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん(アルト)でした。  
 全体発声は50分。

## 内容

## ★Christus factus est

30小節までを重点的に練習しました。

- ・2小節からのバスのフレーズ：低い音なので、お腹の力で胸の方に声を引っ張り込んで出す。
- ・6小節テノール：出だしの音は、先行して歌うソプラノ、アルトのBの音から取る。
- ・7小節バス：鼻腔を持ち上げて広がったところで出す。

13小節4拍目～17小節のハーモニーを繰り返し練習した。

- ・14小節アルト：先行するソプラノのAsの音を出すフォームを作って出す。軟口蓋を持ち上げて。
- ・カ テノール：鼻腔或いは軟口蓋を持ち上げて、上の方に響きを持っていく。
- ・15小節テノール：響きが下がらないように。
- ・15小節アルト：FとEsを別々に歌い直さない。
- ・16小節アルト：Dの音符のところで「BDF」のハーモニーが決まるように。

・19小節バス：「pro」の「p」と「ro」は別個だと考えて、「ro」の「r」の柔らかい巻き舌でFのピッチに乗せて入る。「p」は「プ」にならないように。

- ・22小節テノール：3拍目のFをもう少し高い裏声を出すつもりで。
- ・23小節テノール：2拍目以降、表声に入っていくが、詰まった表声にならないように。空に向かって広がっていくイメージで。閉じた声で詰まらないように。
- ・26小節4拍目テノール：「p」の子音は喉を開くだけ。
- ・27小節バス：出だしの音、19小節と同じように、音が暴れないようにおとなしく出る。
- ・29小節3拍目～テノール：「m」の子音はハミングの状態なので不安定になりやすい。上の方に開くように。上の響きだけで歌えるといい。表声の出し方が勝つと、ピッチが下がる。
- ・30小節テノール：響きを上に。バスのDと綺麗な5度になるように。

## ★Surgite sancti

## ★Sancti Dei

## ★Jesu, Redemptor omnium

★Benedicam Dominum

★O sacramentum

★O felix caritas

通して歌いました。

#### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 安岡

アルト：大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼

バス：翁長 小林 椎野 中西

欠席：2名（アルト、テノール各1名）

#### 備考

発声個人レッスンの予定

6月20日・・・大庭（テノール）

6月27日・・・椎野

7月1日・・・佐藤、大友

7月11日・・・安岡

7月18日・・・平石

7月25日・・・濱野

 [冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年6月6日（水）

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Sanctus

Benedictus

Agnus Dei

Johann Michael Haydn

Surgite sancti

Sancti Dei

Jesu, Redemptor omnium

Christus factus est

Johann Ernst Eberlin

Vier eucharistische Motetten

Johann Georg Albrechtsberger

Ave Regina coelorum

Domine in auxilium

Tenebrae factae sunt

#### 記事

発声個人レッスンは柿沼さんでした。



全体発声は45分。

## 内容

休憩前は以下の曲を通して歌いました。

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Sanctus

Benedictus

Agnus Dei

Johann Michael Haydn

Surgite sancti

Sancti Dei

Jesu, Redemptor omnium

Christus factus est

Johann Ernst Eberlin

Vier eucharistische Motetten

Johann Georg Albrechtsberger

Ave Regina coelorum

Domine in auxilium

Tenebrae factae sunt

## 休憩後

★Domine in auxilium

3小節バス：meum のmeは長音。

5小節バス：4拍目裏gis上ずらないように。

6小節～7小節：バスはconfundanturのピッチが下がらないように。パート内で声を合わせる。テノールは7小節の1拍目danturのピッチが下がらないように。

4声のハーモニーを確認しながら、繰り返し練習した。

7小節3拍目：バスのgisは出しにくい場合はあえて悪い歌い方で出す→喉を狭くして後ろの方に折りたたみ顎を引く。

8小節アルト：quiは歌いだす前にその音を頭の中で吸い込んで準備する。12小節のinも同じ。

10小節アルト：ut auは息が漏れないよう声帯を閉じて出す。

11小節バス：3拍目の音は前の小節の4拍目裏から取る。

14小節3拍目～15小節バス：声を合わせる練習。特に、15小節の2拍目裏のhと3拍目gは下がりやすいので上から入るように。

18小節バス：1拍目の入りピッチ注意。

22小節4拍目バス：下がりすぎないように。

24小節：音を切るところ、指揮を見る。

だいぶ練習した曲なので、

- ・ 指揮をもっと見る。
- ・ もうちょっと間違えないでほしい。
- ・ もうちょっと声を合わせてほしい。
- ・ 一人で歌わないで、隣の人と声を合わせて。

(楽譜に没入していると耳が開かなくなり、音程が悪くなっても、間違ってもずれても気がつかなくなります。)

各自、もう少し自習をして練習に臨みましょう！（自戒の念を込めて）

出席者

ソプラノ：中西 平石 安岡  
アルト：大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野  
欠席：4名（ソプラノ2名、アルト、バス各1名）

#### 備考

発声個人レッスンの予定  
6月13日・・・大庭（アルト）  
6月20日・・・大庭（テノール）  
6月27日・・・椎野  
7月1日・・・佐藤、大友  
7月11日・・・安岡  
7月18日・・・平石  
7月25日・・・濱野

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年5月30日（水）

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Sanctus  
Benedictus  
Agnus Dei

Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum

#### 記事

発声個人レッスンは小澤さんでした。  
全体発声は40分。

内容

##### ★Sanctus

- ・四分音符の動きは相対的に声を軽くする。長い音符と同じ強さで押さない。
- ・'excelsis'の'e'の発音。'ex(ks)'で一度口を閉じるが、次の'cel-'を発音する際、'e'の母音が暗くならないように。
- ・27小節バス：Hを高めに明るく。
- ・43,44小節バス：As和音を意識する。'et'の発音を上から入る。しゃくり上げないように。
- ・45小節：ソシレの和音が綺麗に響くように。

アルトはテノールとの5度、バスとのオクターブ。ずり上げない。ソプラノは第3音を意識する。

- ・57小節テノール：Fisは女声にハモらせることを意識する。
- ・59小節アルト：uの母音。苦しそうにならないように。喉に力を入れず、お腹で息を吸う。

##### ★Benedictus

- ・通奏低音とのハーモニーを意識して歌う。

##### ★Osanna

- ・四分音符は表拍を長めにして、走らないように。特に、言葉がついているパートと完全なメリスマのパート (ex.112小節、116小節など) はよく聴き合って合わせる。
  - ・逆に全音符は延びすぎないように。125～127小節近辺は延ばしているパートが多いので注意。
  - ・テーマの減7度の下降形とその後戻る上下動の練習  
(テノール109～111小節 (同ソプラノ) 、アルト113～115小節 (同バス) )
- 下の音が下がり過ぎないように。次に元に戻ることを意識する。  
アルト・バスのBは特に注意。上から入ることを意識する。
- ・145小節テノール：出だしのEsの音。ソプラノから繋げて音を想像する。

★Agnus Dei

- ・全体的な雰囲気：Agnus Dei は静かな感じでレガートで歌う。Dona nobis pacemに入ってから曲が流れるイメージ。
- ・12小節～'miserere'は最初の'mi'を少し長めに歌う。そのまま並べてしまうと落ち着きがなくなる。
- ・'peccata'の'ca'と'ta'。子音と'a'母音により音が落ちやすいので注意。
- ・'tollis'の'-lis'は語尾、'pe-'は前綴りであることを意識する。
- ・四分音符は流れるように細い声で。(特にDona nobis pacem のメリスマ)

★Ave Regina coelorum

- ・楽譜から顔を上げられるよう、音を外に発信できるよう各自復習しましょう。
  - ・3～4小節：ハーモニーの変化を意識する。
  - ・107小節から速いテンポに慣れるよう何度も練習しました。
  - ・123小節～バス：パート内でピッチを合わせる。特に128～129小節に注意。
  - ・159小節アルト：2拍目のAisは'pro'の発音で音が落ちやすいので注意
  - ・165小節バス：ずり上げず、拍頭でキッチリGに上がる。明るく薄い声で。
- 次のDisは和音とセットでイメージして入る。

出席者

ソプラノ：中西 平石 安岡  
 アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野  
 テノール：小澤 大庭 柿沼  
 バス：小林 椎野 中西  
 欠席：4名 (ソプラノ2名、アルト、バス各1名)

備考

発声個人レッスンの予定  
 6月6日・・・柿沼  
 6月13日・・・大庭 (アルト)  
 6月20日・・・大庭 (テノール)  
 6月27日・・・平石

■冒頭へ

月初の練習日に移動

2018年5月23日 (水)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
 Credo

記事

発声個人レッスンは堀江でした。  
全体発声は40分。

内容

★Credo

22小節テナー：高いdは裏声から入る。  
89小節アルト：声を出す準備をしておくこと。  
223小節テナー：表声でも裏声の音色を出す。  
282小節アルト：抜ける裏声を意識して入る。

pianoの音量で歌う。pianoでも音が下がらないように。  
男声だけで、裏声で歌う練習。==>音質、ピッチが改善された。音量はいらぬ。

男声：高いdより上は裏声で歌う。下は表声になって構わないがなるべく滑らかに繋がるように。

★Ave Regina coelorum

4小節ハーモニー：バスのg ピッチ注意。  
11小節～23小節：下3パートでハーモニーを確認。  
18小節バス：入りがうわずり気味にならないように。  
57小節アルト：disが不安定になりやすいので気をつける。  
142小節以降のフレーズ：半音で上がっていく2拍目の音がちゃんとハーモニーに入っているか意識する。  
165小節ハーモニー：バスのgが要。アルトのdはそれに対して5度を意識する。

出席者

ソプラノ：黒田 中西 平石 安岡  
アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：3名（ソプラノ、アルト、バス各1名）

備考

発声個人レッスンの予定  
5月30日・・・小澤  
6月6日・・・柿沼

■ [冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年5月16日（水）

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Credo

記事

発声個人レッスンは辻村でした。  
全体発声は45分。

最初に2番目のIntonatioを付けて全部通したあと、369～452小節まで (Et vitam venturi saeculi) を「アエアエ」「ウイウイ」「U-ウムラウト」「O-ウムラウト」「エ」のヴォカリーズで練習してから、言葉に戻して歌いました。

次に253～369小節 (Et resurrexit) を練習。

最初のソプラノとバスのデュエットが良くハモるように。

265・266小節のsedetの発音に注意。長母音は最初のseだけです！ deも一緒に長母音にしないで下さい。ちなみにdexteramのdeは長母音ではありません。

275～278小節の間に各パートに出て来る上昇音階は滑らかに。特に最後の二つの8分音符が乱暴にならないように。

310～322小節のテノールとバスのデュエットが良くハモるように。

313小節のバスの2拍目裏のF#の音に注意。

318小節のテノール3拍目のAの音が不安定です。

321小節のproceditのceは長母音。

338・339小節のProphetasのpheは長母音。

最後に3番目のIntonatioを付けて、222小節まで通しました。

75～78小節のDeum de DeoのDeumとDeoのDeは長母音ですが、間のdeは長母音ではありません。deは他にもたくさん出て来ますが、皆同じです (78・79・81・82・147・148・155・156・163・164・170・171・178・179・185・186・192・193・194・204小節)。

#### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 安岡  
アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：1名 (アルト)

#### 備考

発声個人レッスンの予定

5月23日・・・堀江

5月30日・・・小澤

♪ コンサートのお知らせ

渋谷混声合唱団第24回定期演奏会

7月7日 (土) 14時開演 (13時15分開場) 東京オペラシティ コンサートホール

指揮： 水野克彦

ソプラノ： 佐竹由美

テノール： 大島 博

バス： 浦野実成

オーケストラ： Symphonia Fons Harmoniae

柿沼さんが合唱で出演します。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年5月9日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Kyrie  
Gloria

Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum

Michael Haydn: Vier Stücke

## 記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。  
全体発声は56分。

内容

### ★Gloria

189小節から各パートに出て来る suscipe の発音に注意。u は日本語の浅い「ウ」にならないように。いきなり「ス」と言うと浅くなりやすいので、最初に子音の s を発音してから母音の u の音を出すときれいな su になるはず。sci は「シ」ではなく、「スツイ」です。

deprecationem の de は普通の「デ」です。長母音にしている人は直して下さい。

201小節は語尾なのでおさめましょう。

### ★Ave Regina coelorum

2回通しました。

### ★Vier Stücke

4曲通しました。4曲目の Jesu Redemptor は、更にもう一度歌いました。

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 安岡  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西

久し振りに全員出席でした！！(3月28日以来、6週間振り)

## 備考

発声個人レッスンの予定  
5月16日・・・辻村  
以降未定。希望者は辻村までお申し出下さい。

 [冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年5月2日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Agnus Dei

Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん（アルト）でした。  
全体発声は48分（最後の5分は男声のみ）。

### 内容

#### ★Agnus Dei

Dona nobis pacem

dona, donaのコンマを活かしましょう。

ソプラノは111小節最初のBの音を歌った後にブレス。

テノールは159小節最初のD、163小節最初のDの音を歌った後にブレス。

#### ★Tenebrae factae sunt

81小節から練習しました。

88小節1拍目、89小節2拍目の和音に注意。

et等の「エ」の発音が潰れないように。

112～114小節のmarcatoの部分は、言葉をしっかり喋りましょう。但しmpで。

118～121小節のあたりは音が低いので、響きが落ちないように。

141小節の1拍目は語尾ですが、ハーモニーが崩れないようにしっかり鳴らしてから次に入りましょう。

53小節から80小節も歌いました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石 安岡

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：小澤 大庭 柿沼

バス：翁長 小林 中西

欠席：2人（ソプラノ・バス各1名）

## 備考

発声個人レッスンの予定

5月9日・・・大久保

5月16日・・・辻村

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年4月25日（水）

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Sanctus  
Benedictus

Osanna

Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん（テノール）でした。  
全体発声は40分。

内容

### ★Osanna

osanna in excelsisのosannaのsaとexcelsisのceを少しだけ長目に。つまり言葉のアクセントの通りに歌いましょう。時々最後のnaにアクセントが付いてしまっています。

連続した四分音符を1つずつ歌わないように、滑らかに歌いましょう。

inと次のexをリエゾンしないように。

excelsisはエクスツェルスィスです。エクシエルシスではありません！

132小節のテノールの入りの音を正確に。前のフレーズ最後の音と同じなので、そのGの音を覚えておくと良いと思います。

141小節のバスのDの音を正確に。

### ★Tenebrae factae sunt

6小節から13小節1拍目のコンマのところまでは。クレッシェンドしてノンブレスで歌いましょう。

2段目の次々に転調していく和音をきれいに決めましょう。

29小節のmaがくぐもらないように。特に動いている内声は明るく。

33小節、36小節のテノールとバスは同じ音なので、ピタリと揃うように。

crucifixissentのciは「ツイ」です。「チ」ではありません！

unusのuが浅くならないように。

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 安岡  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小沢 大庭 柿沼  
バス：翁長 椎野 中西  
欠席：1名（バス）

ソプラノの安岡さんが正式に入団されました。

## 備考

発声個人レッスンの予定  
5月2日・・・大庭（アルト）

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年4月18日（水）

練習箇所



Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto  
Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum  
Domine in auxilium  
Tenebrae factae sunt

## 記事

発声個人レッスンは柿沼さんでした。  
全体発声は38分。

### 内容

#### ★Missa in contrapuncto

##### Crucifixus

最初のCrucifixusの発音に注意！ Cruのuが浅くならないように。ciは「チ」ではなく「ツイ」です。xusは「クス」ではありません！ 「クスウス」です。

最初のテノールのB→C→Dの上昇型に注意。バスの224小節の2拍目はAです。bを付けないように！

##### Et resurrexit

311小節から320小節のバスは、通奏低音と違う事を歌わなければならないので要注意。

しっかり歌いましょう。310小節のEtの「エ」が潰れないように。313小節2拍目裏のF#の音を正確に。#が取れてしまわないように。

locutusの二つのuが浅くならないように。

##### Et vitam ventri saeculi

バスは最初のEの発音に注意。あごがしまらない様に。

#### ★Ave Regina coelorum

#### ★Domine in auxilium

#### ★Tnebrae factae sunt

3曲通しました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石 (安岡)  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：1名 (ソプラノ)

## 備考

発声個人レッスンの予定  
4月25日・・・大庭 (テノール)

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年4月11日 (水)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

## 記事

発声個人レッスンは小林さんでした。  
全体発声は38分。

### 内容

#### ★Missa in contrapuncto in g

Credoの222小節までを練習しました。

テノールの62小節最後の音が時々上がり切らない事があるので注意しましょう。

68小節のバスの入りの音が不安定です。直前にテノールが同じDの音を歌っているのでよく聞いて入りましょう。

バスの73小節最後の音はFです。間違ってDの音を歌っている人は修正して下さい。74小節最後の音はA♭です。フラットが取れてしまわないように！

83小節のバス最後の音はE♭です。時々フラットが取れてしまう事があるので気を付けましょう。

Eの発音は舌根や顎などに力を入れない自然な「エ」にしましょう。Et、ex、genitum等。

consubstantialemのtiは、「チ」ではなく「ツイ」です。

quemは「クヴェム」、descenditは「デスツェンディット」です。

154・192小節のバスの2番目の音はFです。間違えてDの音を歌わないように。

#### ★Vier eucharistische Motetten

##### Benedicam Dominum

通して歌いました。

##### O sacramentum

通して歌いました。

##### O felix caritas

2回歌いました。

##### Agimus tibi gratias

2回歌いました。

11小節の3拍目の和音が決まるように。

21・54小節の下3声の和音がきれいに決まるように。

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 中西  
欠席：1名(バス)

## 備考

発声個人レッスンの予定

4月18日・・・柿沼

4月25日・・・辻村

2018年4月4日 (水)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Gloria

記事

発声個人レッスンは濱野さんでした。  
全体発声は33分。

内容

最初にGloriaの157小節Qui tollisから、Gloriaの最後の356小節まで通して歌い、その後部分練習しました。

発音の注意

Qui・・・「クヴィ」

miserere・・・最初のreは長母音

suscipe・・・sciは「シ」ではなく、「スツイ」。uの発音が浅くならないように。

sedes・・・seは長母音

ad dexteramのadのdを省略しないで、しっかり発音しましょう。

Quoniam・・・Quoは「クヴォ」

Qui tollis peccata mundiの連続した2分音符を1つ1つ分けて歌わないように。特にtollisの二つの2分音符は、一つの言葉になるように。アクセントは最初のtolにあります。lisは語尾になるように歌いましょう。

最後にGloriaを最初から全部通して歌いました。  
来週はCredoを練習します。

出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：1名(アルト)

備考

発声個人レッスンの予定  
4月11日・・・小林  
4月18日・・・柿沼

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年3月28日 (水)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Kyrie  
Gloria(156小節まで)

Michael Haydn: Vier Stücke  
1. Christus factus est

### 記事

発声個人レッスンは、予定者が来なかったため、行われませんでした。だいぶ前に決めたので、再確認すれば良かったです。予定通り6時からいらして下さっていた水野先生には申し訳ありませんでした！

全体発声は32分。

内容

#### ★Kyrie

Kyrieのyはもう少しウムラウトにしましょう。

7小節のアルトのEの音は、bが付いてしまう事が多いので注意しましょう。

#### ★Gloria

71小節からのglorificamusのシンコペーションのリズムは、跳びはねないように滑らかに歌いましょう。

100小節のソプラノは音が飛んでいますが、8分音符を一つずつ歌わず、二つずつにして滑らかに歌いましょう。

107小節のバスのEの音にフラットが付かないように注意しましょう。

Deusのeはもう少し長母音に。

### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 (安岡)  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西

久し振りに全員出席でした。

### 備考

発声個人レッスンの予定  
4月4日・・・濱野

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年3月21日（水・祝日）

### 練習箇所

(全曲)

Johann Michael Haydn  
Surgite sancti  
Sancti Dei  
Jesu, Redemptor omnium  
Christus factus est

Johann Georg Albrechtsberger  
Ave Regina coelorum  
Tenebrae factae sunt  
Domine in auxilium

Johann Ernst Eberlin  
Vier eucharistische Motetten  
Missa in contrapuncto in g

## 記事

午後3時半から7時15分頃まで練習しました。  
発声個人レッスンは行いませんでした。全体発声は37分。

内容

### ★Surgite sancti

言葉の意味を考えながら歌いましょう。

11小節2拍目のアルトから新しいフレーズが始まるので、新しく歌い直しましょう。

どのパートもloca はレガートで。loの長い音の次の音に注意。2度音程をしっかりと意識しましょう。

バスは他のパートとテンポがズレがちです。特に長い音の次に入るタイミングが遅れないように気を付けましょう。

### ★Sancti Dei

33小節のテノールのEの音が外れないように。C-Durの和音がきれいに聞こえるように意識しましょう。

### ★Jesu, Redemptor omnium

通しました。

### ★Christus factus est

通しました。

### ★Ave Regina coelorum

通しました。

30小節からの各パートのexのeの母音が硬くならないように注意しましょう。

### ★Tenebrae factae sunt

通しました。

### ★Domine in auxilium

通しました。

### ★Vier eucharistische Motetten

4曲通しました。

### ★Missa in contrapuncto in g

全曲通しました。

Credoの310～322小節の部分は、合唱のバスとコンティヌオが違う事をやっているの、バスは意識して歌いましょう。313小節のF#の音が不安定なので要注意です。

Agnus Deiの22～27小節の部分の4分音符が詰まってしまうないように。

最後のpacemのmをしっかり発音しましょう。

出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石 (安岡)  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼 (安岡)  
バス：小林 椎野 中西  
欠席：欠席1人(バス)

見学の方(ご夫妻)が来られ、最初の発声練習から練習の最後まで参加して下さいました。

### 備考

発声個人レッスンの予定  
3月28日・・・大庭(テノール)

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年3月14日 (水)

### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten  
Benedicam Dominum  
O sacramentum

Johann Michael Haydn: Vier Stücke  
1. Christus factus est  
2. Surgite sancti  
3. Sancti Dei  
4. Jesu Redemptor

### 記事

発声個人レッスンは堀江さんでした。  
全体発声は33分。

内容

★Benedicam Dominum

1度通してから部分練習をしました。

★O sacramentum

1度通してから部分練習をしました。

★Christus factus est

19小節1拍目と3拍目の和音がきれいに決まるように。

crucisのciは「チ」ではなく、「ツイ」です。uが浅くならないように注意しましょう。

37小節4拍目のバスのAsの音程がいつもバラバラなので注意しましょう。

77小節から78小節に入る時は、78小節の1拍目にアクセントが付かないように慎重に歌いましょう。

★Surgite sancti

1回通しました。

★Sancti Dei

2回通しました。

★Jesu Redemptor

1回通しました。

出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 柿沼  
バス：小林 椎野 中西  
欠席：3人(アルト・テノール・バス各1名)

備考

発声個人レッスンの予定  
3月28日・・・大庭(テノール)

来週は、発声個人レッスンはありません。  
練習開始は午後3時半、終了は7時～7時15分頃の予定です。

♪ コンサートのお知らせ  
3月18日(日) 17時30分開演 紀尾井ホール  
PMS合唱団第35回記念公演  
ハイドン： 『テ・デウム』、『天地創造』  
指揮： 松村 努  
ソプラノ： 中江早希  
テノール： 田口昌範  
バス： 黒田裕貴  
フォルテピアノ：織田祥代  
グロリア室内オーケストラ

バスの小林さんが合唱で出演されます。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年3月7日 (水)

練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger: Domine in auxilium  
Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt  
Johann Michael Haydn: Vier Stücke  
1. Christus factus est  
2. Surgite sancti  
3. Sancti Dei  
4. Jesu Redemptor

記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。  
全体発声は33分。

## 内容

### ★Domine in auxilium

一度通してから部分練習をしました。

12小節のアルト2拍目のHの音を決めましょう！

### 楽譜の訂正

1. 13小節の伴奏右手最後の音はCです。ナチュラルを付けて下さい。
2. 14小節のバスの4拍目は前に変更した通りです。4拍目表はF#、裏の二つの16分音符は両方ともEにします。
3. 44小節の伴奏右手2拍目はGです。ナチュラルを付けて下さい。

### ★Tenebrae factae sunt

81小節から最後まで通して歌ってから部分練習。

53～61小節、88～91小節、106～108小節など、和音を意識して歌いましょう。

68小節のクレッシェンドのきっかけは、69小節のアルトの2拍目のSpi～から。  
sanguisのgは鼻濁音にして下さい。

### ★Christus factus est

全体にレガートで音符をつないで歌いましょう。

15小節は4拍目の和音を気にしながら歌いましょう。

21小節の1・2拍目のアルトはテノールとぶつかっているの、しっかり歌いましょう。

79・81小節のmortemの最後のmをしっかり鳴らしましょう。

### ★Surgite sancti

2回通しました。

### ★Sancti Dei

1回通しました。

### ★Jesu, Redemptor omnium

第1節のみ通しました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：5人(ソプラノ・アルト・テノール各1名、バス2名)

## 備考

発声個人レッスンの予定  
3月14日・・・堀江  
3月28日・・・大庭(テノール)

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2018年2月28日 (水)



## 練習箇所

Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt

## 記事

発声個人レッスンは柿沼さんでした。  
全体発声は30分。

内容  
★Tenebrae factae sunt  
今日は、ハーモニーに注意しながら、段落ごとに区切って練習しました。アカペラで楽器に頼れないので、お互いに耳で良く聴きながら歌いましょう！

crucifixissentのciは、「チ」ではなく「ツイ」です。iがきつくならないように。  
76小節1拍目のtumは短く。語尾なのでアクセントが付かないように。  
uの発音が浅くならないように気を付けましょう。特に男声が目立ちます！！

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 中西  
欠席：2人(アルト・バス各1名)

## 備考

発声個人レッスンの予定  
3月7日・・・大久保  
3月14日・・・堀江  
3月28日・・・大庭(テノール)

※3月21日(祭)は、発声個人レッスンを行いません。  
練習は午後3時半から7時半です。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年2月21日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Sanctus  
Agnus Dei

Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum  
Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

## 記事

発声個人レッスンは中西さん(バス)でした。  
全体発声は29分。

内容

### ★Missa

SanctusとAgnus Deiを通して歌いました。

### ★Ave Regina coelorum

2回通しました。2回目は超スローテンポで音を確認したあと、134~164小節を練習しました。アルトは120小節のA#の音が上がら切らない事が多いので注意しましょう。

バスは165小節のGが上ずらないように注意しましょう！

### ★Tenebrae factae sunt

言葉を読んでから通しました。

2小節目の1拍目のアルトとテノールの4度の音程が決まるように。

9・11・13小節の1拍目のハーモニーが決まるように。

36小節のテノールとバスのFの音が良く合うように。

38小節のアルトとテノールの3度の音程が決まるように。

40小節のソプラノとテノールの5度の音程が決まるように。

82、122小節のunus「ウーヌス」の発音に注意！ 時々「ウーナス」になっている人が居ます。uが浅くならないように。

### ★Benedicam Dominum

51小節の和音が決まるように。

55・56・57小節の和音が決まるように。

### ★O sacramentum

2回通しました。

### ★O felix caritas

1回通しました。

### ★Agimus tibi gratias

1回通しました。

15・48小節のbeneficiisの発音に注意！ 時々beneficiusと歌っている人が居ます！

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 平石

アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：小澤 柿沼

バス：翁長 中西

欠席：5人(ソプラノ・アルト・テノール各1名、バス2名)

先週見学に来られた方は、残念ですが「参加を見送りたい」との事でした。

## 備考

発声個人レッスンの予定

2月28日・・・大庭(テノール)

3月7日・・・大久保

3月14日・・・堀江

2018年2月14日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Credo

Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん(アルト)でした。  
全体発声は41分。

内容

## ★Credo

最初のIntonatioを皆で歌ってから通して歌いました

310~322小節・・・この部分は他の箇所と違い、バスは通奏低音を頼りに出来ないののでしっかり歌いましょう。

313小節の2拍目裏のF#は要注意です！ #が取れてしまわないように！

coeli・・・coeは「ツェ」(O-ウムラウト)

unigenitum、genitum・・・geは「ゲ」(長母音)

consubstantialem・・・tiは「ツイ」

quem・・・「クヴェム」

Qui・・・「クヴィ」

homines・・・hoは「ホ」

descendit・・・ceは「ツェ」

coelis・・・coeは「ツェ」(O-ウムラウト)

Virgine・・・giは「ギ」

homo・・・hoは「ホ」

Crucifixus・・・「クルツイフィクスウス」

etiam、Pontio・・・tiは「ツイ」

ascendit・・・「アスツェンデイト」

coelum・・・coeはツェ(O-ウムラウト)

regni・・・「レグニ」

catholicam・・・thoは「ト」

resurrectionem・・・tiは「ツイ」

## ★Ave Regina coelorum

言葉を読んでから、2パートずつ音取りをしました。

Regina・・・giは「ギ」

coelorum・・・coeは「ツェ」(O-ウムラウト)

angelorum・・・geは「ゲ」

qua・・・「クヴァ」  
speciosa・・・ciは「ツイ」

#### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西 (田村)  
欠席：1名(アルト)

#### 備考

発声個人レッスンの予定  
2月21日・・・中西(バス)  
2月28日・・・大庭(テノール)  
3月7日・・・  
3月14日・・・

田村隆昭さん(バス)が見学に来られました。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2018年2月7日 (水)

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten  
Johann Georg Albrechtsberger: Domine in auxilium  
Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt

#### 記事

発声個人レッスンは辻村でした。  
全体発声は33分。

内容

★Missa

KyrieとGloriaを通して歌いました。

KyrieのyはU-ウムラウトにします。

eleisonのiは、はっきり「イ」と言わずに通過するだけ。

Gloria

最初のIntonatioを皆で歌ってから、通して歌いました。

excelsisのceは「ツェ」

Deoのeは長母音

hominibusのhoは「ホ」

teのeは長母音

benedicimusのciは「ツイ」

Gratiasのtiは「ツイ」  
agimusのgiは「ギ」  
magnamは「マグナム」  
Deusのeは長母音  
coelestisのcoeは「ツェ」(O-ウムラウト)  
unigeniteのgeは「ゲ」  
Jesuのeは長母音  
Agnusは「アグヌス」  
Deiのeは長母音

Quiは「クヴィ」  
miserereの最初のreは長母音  
deprecationemのtiは「ツイ」  
sedesのseは長母音  
QuoniamのQuoは「クヴォー」

★Vier eucharistische Motetten

Benedicam Dominum

ejusのe、oreのo、meoのeは長母音

mansuetiは、sueと一気に言ってからそのままeで延ばします。楽譜を注意深く見ると、ちゃんとそのように歌詞を割り振って書いてあります！

quoniamのquoは「クヴォー」、quiは「クヴィ」  
eoのeは長母音

O sacramentum

mysteriumのyはU-ウムラウト

quoは「クヴォー」  
deliciasのciは「ツイ」

O felix caritas

felicitasのciは「ツイ」  
tranquillitasのquiは「クヴィ」

バスは15小節のF#、G#の音が曖昧です。各自練習しておいて下さい！ 3拍目裏のCの音には#が付いてしまいがちなので、それも修正しておいて下さい。

Agimus tibi gratias

beneficiisのciは「ツイ」  
quiは「クヴィ」  
Gratiasのtiは「ツイ」  
agimusのgiは「ギ」

★Domine in auxilium

meum、meam、eamのeは長母音

respiceのceは「ツェ」  
quiは「クヴィ」

quaeruntのquaeはクヴェ。「ルン」を「ラン」と言っている人が居るので直して下さい。

テノールは41～44小節の音を正確にお願いします。

★Tenebrae factae sunt

80小節までの復習をしてから、80小節以降の言葉を読み、2パートずつ音取りをしました。

最後に全曲通しました。

factaeのtaeは「テ」

crucifixissentのciは「ツイ」  
judaeiのdaeは「デ」  
circaのciは「ツイ」  
horamのhoは「ホ」  
voceのceは「ツェ」  
magnaは「マグナ」  
Deus、meusのeは長母音  
quidのquiは「クヴィ」  
meのeは長母音  
dereliquistiのquiは「クヴィ」、tiは「ティ」  
emisitのsiは濁ります。  
militibusのtiは「ティ」  
lanceaのceは「ツェ」  
ejusのeは長母音  
continuoのtiは「ティ」  
aquaのquaは「クヴァ」  
velumのeは長母音  
scissumのsciは「スツイ」  
usqueのqueは「クヴェ」

来週は新しい曲Ave regina coelorumも練習します。  
楽譜を忘れないようにお願いします！

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：2人(ソプラノ・アルト各1名)

#### 備考

発声個人レッスンの予定  
2月14日・・・濱野  
2月21日・・・中西(バス)

来週は見学の方(バス)が来られる予定です。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年1月31日 (水)

#### 練習箇所

Michael Haydn: Jesu, Redemptor omnium  
Johann Georg Albrechtsberger:  
Domine in auxilium  
Tenebrae factae sunt

#### 記事

発声個人レッスンは小林さんでした。  
全体発声は32分。

#### 内容

##### ★Jesu, Redemptor omnium

久しぶりなので、言葉を読んでから歌いました。

clementius、confitentiumはのti、「ツイ」、precantibusのtiは「ティ」です。

perducisのciは「ツイ」、caelestiaのtiは「ティ」です。

##### ★Domine in auxilium

25小節から最後までを練習してから、全曲通しました。

allelujaの三つの8分音符は同等ではなく、真ん中(allelujaのleの部分)

に重さが来るように歌いましょう。

##### ★Tenebrae factae sunt

言葉を読んでから、1パートずつ音取りしました。80小節まで。

crucifixissent、circaのciは「ツイ」、

horamのhoは「ホ」です。hは発音します。

voceのceは「ツェ」、magnaのgは発音します。

emisitのsiは「ズイ」

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼

バス：翁長 小林 椎野 中西

欠席：3人(ソプラノ・アルト・テノール各1名)

#### 備考

発声個人レッスンの予定

2月7日・・・大久保

2月14日・・・濱野

3月21日(水・祭)の練習は午後3時半～7時半の予定です。発声個人レッスンは行いません。3時半から全員集まった状態で練習を開始出来るように、ご協力をお願いします。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2018年1月24日 (水)

#### 練習箇所

Michael Haydn: Sancti Dei, MH312

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

Agimus tibi gratias

Johann Georg Albrechtsberger: Domine in auxilium

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん(テノール)でした。  
全体発声は28分。

### 内容

#### ★Sancti Dei

2回通しました。

#### ★Agimus tibi gratias

1回通した後、32小節から最後まで男声の練習をしました。33小節は同じHの音です。揃えましょう。gratiasのtiは「ツイ」です。最後のsも省略しないように！  
最後に31小節から全パートで歌いました。

#### ★Domine in auxilium

1パートずつヴォカリーゼで音取りをしてから言葉を読み、全パート一緒に言葉を付けて歌いました。  
revereanturのveは長母音、respiceのceは「ツェ」、allelujaのleは長母音です。  
14小節のバスの4拍目は、G→Fis、Fis→Eに変更します。(通奏低音と同じにして、E音は16分音符二つにします。)

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西  
アルト：大久保 大友 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：3人(ソプラノ・アルト・テノール各1名)

## 備考

発声個人レッスンの予定

1月31日・・・辻村

2月7日・・・小林

水野先生から講習会聴講のおすすめがありました。大変勉強になるそうです。

小林道夫アカデミーin東京2018

2月1日(木) 12-17時

2月2日(金) 13-17時

ムラマツホール(西新宿駅すぐ)

一日聴講料：1000円

受講者・受講曲・時間配分などの詳細は「小林道夫アカデミーin東京2018」、又は「東京芸術大学バッハカンタータクラブOB会」で検索すると出て来ます。

演奏会のお知らせ

四旬節「マタイ受難曲」演奏会

2月12日(月・祭) カトリック聖アンセルモ目黒教会 14時開演

指揮： 高島浩

聖書朗読： 田中昇神父(カトリック北町教会主任司祭)

ソプラノ： 小澤美咲紀

アルト： 三井真理子

テノール： 成田拓也

バリトン： 小関基宏



オルガン： 池野弘美

管弦楽&合唱：四旬節マタイ受難曲オーケストラ&合唱団

元アマデウス団員の名阪雅美さんが、合唱のソプラノで出演します。

チケットは売り切れ間近だそうです、当日販売があるようです。(1000円)

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年1月17日 (水)

### 練習箇所

Michael Haydn: Vier Stücke

Christus factus est

Surgite sancti

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

O felix caritas

Agimus tibi gratias

### 記事

発声個人レッスンは大庭さん(アルト)でした。

全体発声は31分。

内容

★Christus factus est

obediensのbeは長母音ですが、「イ」になり過ぎないように。

★Surgite sancti

★O felix caritas

felixは長母音。

★Agimus tibi gratias

言葉を読んだから2パートずつ(ソプラノ・テノール、アルト・バス)練習しました。

Agimusのgiは「ギ」、gratiasのtiは「ツイ」、beneficiisのciは「ツイ」です。

来週はAlbrechtsbergerのDomine in auxiliumも練習しますので、楽譜を忘れないようにお願いします。

### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 濱野 堀江

テノール：小澤 大庭 柿沼

バス：小林 椎野 中西

欠席：欠席2人(アルト・バス各1名)

### 備考

発声個人レッスンの予定

1月24日・・・大庭(テノール)

1月31日・・・辻村

2月7日・・・小林

3月21日(祭・水)の練習時間は午後3時から開始します。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2018年1月10日 (水)

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

Benedicam Dominum

O sacramentum

O felix caritas

Michael Haydn: Vier Stücke

Christus factus est

#### 記事

発声個人レッスンは柿沼さんでした。

全体発声は31分。

内容

★Benedicam Dominum

36小節から45小節の部分は、各パートがそれぞれ違う動きをされていてアンサンブルが乱れやすいので、リズム・テンポ・拍子に注意。

45小節のテノールのDの音は高めに。

50小節1拍目のテノールとバスは、Cの音を揃えましょう。

ejus、ore、meo、eoは長母音です。

★O sacramentum

アルトとバスは、Asの音が低過ぎないように注意。

★O felix caritas

言葉を読んでから1パートずつ、続いて2パートずつ、言葉を付けて音取りしました。

felixは長母音。

14小節のテノールの最後の音はHです。bを付けないように注意。

15小節のバスの3拍目裏のCの音に#が付いてしまう事が多いので注意。

★Christus factus est

久しぶりに(11月15日以来!)2回通しました。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西

アルト：大久保 大庭 大友 佐藤 濱野 堀江

テノール：大庭 柿沼  
バス：翁長 小林 椎野 中西  
欠席：3人(ソプラノ2名、テノール1名)

### 備考

発声個人レッスンの予定  
1月17日・・・大庭(A)  
1月24日・・・大庭(T)  
1月31日・・・  
2月7日・・・小林

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2017年12月27日 (水)

### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten  
Benedicam Dominum  
O sacramentum  
Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

### 記事

年内最後の練習でした。練習場所は新桜台のスタジオ1619。  
発声個人レッスンは平石さんでした。  
全体発声は28分。

#### 内容

##### ★Benedicam Dominum

言葉を読み、2回通してからアルト・バス、ソプラノ・テノールの2パートずつ練習。  
付点音符を延ばし過ぎて、次の16分音符が寸詰まりにならないように。

#### 注意する発音

ejusのe、oreのo、meoのeは長母音。mea、eoのeも同じ。

##### ★O sacramentum

ヴォカリーゼで2パートずつ練習後、言葉を付けて歌いました。

#### 注意する発音

mysterium・・・yはウムラウトに。

spes・・・eは長母音。

delicias・・・ciは「ツイ」。

angelorum・・・geは「ゲ」。

##### ★Missa in contrapuncto

Kyrie、Gloria、Credoを通して歌いました。

出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 翁長 大庭 柿沼  
バス：小林 中西  
欠席：2人(ソプラノ・バス各1名)

#### 備考

発声個人レッスンの予定  
1月10日・・・柿沼

希望者される方は、辻村までお願いします。

練習後、江古田駅近くの中華「唐苑」で忘年会を行いました。参加者は今日の練習出席者全員でした。  
新年の練習開始は1月10日からです。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2017年12月20日（水）

#### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten  
Benedicam Dominum

#### 記事

発声個人レッスンは濱野さんでした。  
全体発声は28分。

内容

★Missa in contrapuncto in g  
Agnus Deiから遡って全曲歌いました。

★Benedicam Dominum

ソプラノとテノール、アルトとバスの組み合わせで、ヴォカリーゼで音取り。

言葉を読んだあと、言葉を付けて何度か通して歌いました。

ore、meoは長母音。

mansuetiは、eにアクセント。

laudabiturは、daにアクセント。

suavis、Beatiは、aにアクセント。

videteは、deにアクセント。

16小節のソプラノとアルトに付いている装飾音は付けません。

52小節のソプラノの装飾音は付けます。2拍目は、装飾音の小さな8分音符を4分音符にして歌い、3拍目はH(「シ」)の音で8分音符二つにして歌います。

41小節から45小節に出て来る16分音符でテンポが崩れないように注意しましょう。

## 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：2人(テノール・バス各1名)

## 備考

発声個人レッスンの予定  
12月27日・・・平石  
1月10日・・・柿沼

脚の骨折で暫く欠席されていたアルトの上松さんは、残念ながら退団されました。

来週は練習場所が変更になります。お間違いのないように！  
練習後に忘年会を行います。

7月4日(水)は、渋混のオケ合わせで水野先生が御不在のため、自主練習にする予定でしたが、7月1日(日)に水野先生のご都合がつかないので、4日はお休みにする事にしました。  
7月1日は午後3時から練習の予定ですので、予定しておいて下さい。

[冒頭へ](#)

月初の練習日に移動

2017年12月13日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Credo  
Sanctus  
Agnus Dei

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん(テノール)でした。  
全体発声は20分。

内容

### ★Credo

Crucifixus

Et resurrexit

Et vitam venturi saeculi

全曲通しました。

### ★Sanctus

Benedictus

Osanna

### ★Agnus Dei

Dona nobis pacem

2パートずつ、言葉を付けて音取りしました。

来週はEberlinのVier eucharistische Motettenも練習予定です。

### 出席者

ソプラノ：黒田 辻村 平石  
アルト：大久保 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 翁長 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：4人(ソプラノ1名・アルト2名・バス1名)  
ソプラノの黒田さんが正式に団員になりました。

### 備考

発声個人レッスンの予定

12月20日・・・濱野

12月27日・・・平石

7時に早稲田混声合唱団の学生が3人で定期演奏会の宣伝に来ました(HPのお問い合わせフォームから依頼がありました。)

12月28日(木)に新宿文化センターで、メンデルスゾーンの「エリヤ」を演奏するそうです。

指揮：八尋和美、ソプラノ：榎本桂子、アルト：谷地敵晶子、テノール：大島博、バス：北村哲郎、オルガン：山口綾規、管弦楽：東京バッハ・カンタータ・アンサンブル

8時から総会を行いました。

●役員・指導者は今まで通りに決定。

●次回定演は同仁キリスト教会礼拝堂で、10月7日(日)午後6時又は6時半開演

リハーサル・・・10月3日(水) 午後6時半～9時 礼拝堂

10月6日(土) 午後1時～5時 礼拝堂

●7月4日(水)は渋混、11月7日(水)は三菱が本番前のリハーサルのため、アマデウスの練習は水野先生が不在になります。

7月4日は、渋混とアマデウスの両方に参加しているメンバーが少ない事と、アマデウスの演奏会が10月に控えている事から、自主練習を行う事にしました。

11月7日は、三菱とアマデウスの両方に参加しているメンバーが多い事と、アマデウスの本番が終わって間もない事から、アマデウスの練習はお休みにする事にしました。

8月11日(土・祝)は渋混がお盆休みのため、アマデウスの臨時練習を入れる予定です。

今までは本番直後の水曜日の練習は休みにしていましたが、10月10日(水)は練習を行います。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2017年12月6日 (水)

### 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Credo  
Crucifixus  
Et resurrexit  
Et vitam ventri saeculi

## 記事

発声個人レッスンは大庭さん(アルト)でした。  
全体発声は25分。

内容

### ★Credo

115小節まで歌ってから、次の部分の言葉を読み、1パートずつ音取りをしました。

注意する発音

coeli、coelis・・・coelはチェではなく、ツェ。ツェはウムラウトに。  
descendit・・・デシェンディットではなく、デスツェンディット。

### ★Crucifixus

注意する発音

Crucifixus・・・クルツイフィクスス  
etiam・・・エツィアム

244小節のテノールの歌詞sepultusのseの次にハイフンが抜けているので入れて下さい。

### ★Et resurrexit

ascendit・・・アシェンディットではなく、アスツェンディット  
coelum・・・チェルムではなく、ツェルム。ツェはウムラウト。  
sedet・・・seは長母音に。  
procedit・・・プロツェーディット。ceは長母音に。

配布されたプリント2枚・・・Eberlin2曲の序文の訳

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石 (黒田)  
アルト：大久保 大友 大庭 濱野 堀江  
テノール：小澤 大庭 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：4人(アルト2名・テノール・バス各1名)

## 備考

年内の発声個人レッスンの予定  
12月13日・・・大庭(テノール)  
12月20日・・・濱野

来週13日は、練習途中の8時から総会を行い、終了後にまた練習を再開します。

2017年11月29日 (水)

## 練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g  
Kyrie  
Gloria  
Credo

## 記事

発声個人レッスンは辻村でした。  
全体発声は20分。

内容

## ★Kyrie

復習しました。伴奏付き、アカペラ等で3回通しました。アルトは7・22・35小節のEの音に注意。フラットを付けないように！

## ★Gloria

最初に全曲通した後、157小節のQui tollisから最後まででの読み方の再確認をして、その部分を歌いました。その後最初のEt in terra paxの部分の言葉も再確認してから全曲通しました。

## ★Credo

音取りを開始しました。ヴォカリーゼで1パートずつ115小節まで練習して、最後に言葉も付けました。

Albrechtsberger(3曲)とEberlinのVier eucharistische Motettenの訳、Albrechtsbergerの楽譜の序文の訳を配布しました。

## 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石 (黒田)  
アルト：大久保 大友 佐藤 濱野 堀江  
テノール：小澤 柿沼  
バス：椎野 中西  
欠席：6人(アルト・テノール・バス各2名)

バスの山村さんは、お仕事の都合で暫く休団されます。  
銀行合唱団の黒田さんが見学に来られました。

## 備考

発声個人レッスンの予定  
12月6日・・・大庭(アルト)  
12月13日・・・大庭(テノール)  
12月20日・・・濱野  
12月27日・・・



2017年11月22日 (水)

練習箇所

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

記事

発声個人レッスンは柿沼さんでした。  
全体発声は38分。

内容  
Gloria  
最初に156小節までの復習をしてから、次のQui tollisをヴォカリーゼ(la)で音取り。  
最後にGloria全曲を、言葉を付けて通して歌いました。  
Qui tollisはまだ言葉の読みを行っていないので来週行いますが、qui(クヴィ)、suscipe(スースツイベ)、Quoniam(ク  
ヴォーニウム)等の発音を注意して下さい。

アルトは6度の音程が上がり切っていない事が多いので注意しましょう(163~164、172、186~187小節など。)

訳の新しいプリント(3枚)を配布しました。

出席者

ソプラノ：辻村 中西  
アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江  
テノール：大庭  
バス：柿沼 小林 椎野 中西 山村  
欠席：4人(ソプラノ・アルト各1名、テノール2名)

バスの小林さんが正式に団員になりました。  
バスの柿沼さんは来週からテノールに移動します。

備考

発声個人レッスンの予定  
11月29日・・・辻村  
12月6日・・・大庭( )  
12月13日・・・大庭( )  
12月20日・・・

12月27日の練習場所が、新桜台のSTADIO1619に変更になります。地図を用意してありますので、受け取って下さい

冒頭へ

2017年11月15日 (水)

## 練習箇所

Johann Michael Haydn: Vier Stücke

4. Jesu Redemptor, MH313

3. Sancti Dei, MH312

2. Surgite sancti, MH311

1. Christus factus est, MH58

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Kyrie

Gloria

## 記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。

全体発声は22分。

### ★Jesu Redemptor

ヴォカリーゼで歌ってから、言葉を付けて通しました。

8分音符が転がらないように。

40小節のアルトの1番の歌詞にあるtiと、2番の歌詞にあるreは消して下さい。

発音の注意

1番

praesulumのsuは濁ります。

clementiusのtiは「ツイ」。

praecantibusのtiは「テイ」。

2番

gloriosoのseは濁ります。

martyrumのyはU-ウムラウト。

confitentiumのtiは「ツイ」。

quiは「クヴィ」。

perducisのciは「ツイ」。

caelestiaのcaeは「ツェ」、tiは「テイ」。

tiの発音・・・tiの後が子音の時は「テイ」、tiの後が母音の時は「ツイ」ですが、後が母音でも前がt、s、xの場合は「テイ」です。

楽譜の5ページにあるTexteにはclementibusに

なっていますが、bを除いてclementiusに訂正して下さい。先日配布した訳のプリントも同様です。

### ★Sancti Dei

通しました。

### ★Surgite sancti

通しました。

### ★Christus factus est

通してから部分練習をして、最後にもう一度通しました。

37小節4拍目のバスは、時々フラットが取れてしまう事があるので要注意！

## ★Kyrie

通しました。

## ★Gloria

156小節までをヴォカリーズで音取り。ソプラノとテノール、アルトとバスの組み合わせで。次にソプラノとアルト、テノールとバスの組み合わせで。最後に全パートで合わせました。

最後に言葉を読んでから、言葉を付けて歌いました。

### 発音の注意

hominibusのhは発音します。

benedicimusのciは「ツイ」

teは長母音

Gratiasのtiは「ツイ」

agimusのgiは「ギ」

magnamのgは「グ」

coelestisのcoeは「ツェ」

unigeniteのgeは「ゲ」

Agnusはアグヌス

### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：大久保 大友 大庭 佐藤 濱野 堀江

テノール：小澤 大庭

バス：柿沼 椎野 中西 山村

欠席：2人(アルト・テノール各1名)

佐藤さんと濱野さんが正式に団員になりました。

ソプラノの名阪さんは、水曜日の練習への参加が難しくなり、退団されました。

### 備考

楽譜代は7,500円に決定しました。ご都合のよい時にお支払いください。

発声個人レッスンの予定

11月22日・・・ 柿沼

11月29日・・・

演奏会のお知らせ 11月26日(日) 午後2時開演 紀尾井ホール

三菱東京UFJ銀行合唱団第7回定期演奏会

W. A. モーツァルト：「戴冠式ミサ」KV317、「ヴェスペレ」KV339

指揮： 水野克彦

ソプラノ： 星川美保子

アルト： 谷地畝晶子

テノール： 大島 博

バス： 浦野智行

ソプラノの平石さん、中西さん、アルトの佐藤さん、テノールの大庭さんが出演します。

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2017年11月8日 (水)

練習箇所

Johann Michael Haydn: Vier Stücke

4. Jesu Redemptor, MH313

3. Sancti Dei, MH312

2. Surgite sancti, MH311

1. Christus factus est, MH58

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

Kyrie

記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。

全体発声は22分。

内容

★Jesu Redemptor omnium

ヴォカリーゼ(ho、hu、o等)でパート別に音取りしました。歌詞は来週付けます。

★Sancti Dei

発音の注意

Deiのeは長母音

intercedereのceは「ツェ」で、長母音

digneminiは「ディグネーミニ」

EumのEは長母音

quiは「クヴィ」

elegitのeは二つとも長母音

proのoは長母音

necessitatibusのceは「ツェ」

omniumqueのqueは「クヴェ」

saluteのuが浅くならないように。

★Surgite sancti

発音の注意

Surgiteのgiは「ギ」

Deiのeは長母音。

deのeは長母音

plebemの最初のeは長母音

benediciteのciは「ツイ」

nosは長母音

paceのceは「ツェ」

custoditeのuが浅くならないように。

★Christus factus est

発音の注意

pro、nobisのoは長母音

obediensの最初のeは長母音。

usqueは「ウスクヴェ」

crucisのciは「ツイ」、uは浅くならないように。

★Kyrie ソプラノとテノール、アルトとバスの組み合わせで、ヴォカリーゼ(lo)で音取りしてから、言葉を付けて通しました。ドイツ読みをしているので、KyrieのyはU-ウムラウト、eleisonのsonは「ゾン」にします。

#### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石  
アルト：大久保 大友 大庭 堀江 (佐藤 濱野)  
テノール：小澤 翁長 大庭  
バス：柿沼 椎野 中西 (小林)  
欠席：3人(ソプラノ・アルト・バス各1名)

#### 備考

先日の定期演奏会のDVDが出来ました。希望した人は平石さんから受け取って下さい。1,000円です。CDはもう少しかかるそうです。

発声個人レッスンの予定

11月15日・・・大久保

11月22日・・・大久保

11月29日・・・大久保

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

## 2017年11月1日 (水)

#### 練習箇所

Johann Michael Haydn: Surgite sancti MH311  
Johann Michael Haydn: Sancti Dei MH312  
Johann Michael Haydn: Christus factus est MH58

#### 記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。  
全体発声は27分。

内容

★Surgite sancti

言葉を確認してから、通して歌いました。  
言葉や音程を修正し乍ら、更に3回通しました。

注意する発音・・・plebem、loca、nosは長母音、pace のceはツェ、hominesのhoはホ、benediciteのciはツイです。custoのuは浅くならないように注意しましょう。

★Sancti Dei

ヴォカリーゼ(ho)で何度か通してから、音程を修正。そして言葉を読み直してから、また通して歌いました。

注意する発音・・・intercedere、necessitatibusのceはツェ。digneminiはディグネーミニ。Eumのe、elegitのleは長母音。apud、saluteのuが浅くならないように。

★Christus factus est

言葉を確認してから1度通して歌いました。

crucisのciは「ツイ」です。

37小節のバスの4拍目はA㇗です。まだ時々フラットが取れてしまいがちです。

最後に、今日の練習の最初に練習したSurgite sanctiを2回通しました。

楽譜を5冊配布しました。これで全曲揃いました。今日欠席された方は、次回受け取って下さい。楽譜代は未定です(7千円前後)。

Johann Georg Albrechtsberger: Tenebrae factae sunt(コピー)

Johann Georg Albrechtsberger: Ave Regina coelorum(コピー)

Johann Georg Albrechtsberger: Domine in auxilium(コピー)

Johann Ernst Eberlin: Vier eucharistische Motetten

Johann Ernst Eberlin: Missa in contrapuncto in g

出席者

ソプラノ：辻村 中西

アルト：大久保 大庭 堀江 (濱野)

テノール：小澤 大庭

バス：柿沼 椎野 中西 (小林)

欠席：6人(ソプラノ・アルト各2名、テノール・バス各1名)

備考

発声個人レッスンの予定

11月8日・・・大久保

[冒頭へ](#)

[月初の練習日に移動](#)

2017年10月25日 (水)

練習箇所

Johann Michael Haydn: Christus factus est, MH58

Johann Michael Haydn: Surgite sancti, MH311

記事

発声個人レッスンは大久保さんでした。

全体発声は30分。

★Christus factus est

最初に言葉を付けて通してから、部分練習をしました。

語尾を歌い過ぎないように(9小節、53小節等)。

uの発音が浅くならないように注意(usque、crucis等)。

ドイツ語読みにしているので、crucisのciは、「チ」ではなく、「ツイ」です。

37小節のバスの4拍目はA㇗です。時々フラットが取れてしまう事があるので注意。

### ★Surgite sancti

ヴォカリーゼ(lo)でソプラノとアルト、テノールとバスの組み合わせで音取りをしました。

次にuで、4パートで通してから言葉を読みました。

言葉を付けて3回歌いました。

Surgiteのgiは「ギ」です。

benediciteのciは「ツイ」です。

hominesは「ホミネス」です。

paceは「パーツェ」です。

最後にもう一度Christus factus estに戻り、48小節から最後まで練習したあと、最初から通しました。

来週は3曲目に入ります。

Johann Michael HaydnとJohann Georg Albrechtsbergerの訳を配布しました。

### 出席者

ソプラノ：辻村 中西 平石

アルト：上松 大久保 大友 大庭 堀江 (佐藤 濱野)

テノール：大庭

バス：柿沼 椎野 中西 山村

欠席：3人(ソプラノ1名・テノール2名)

### 備考

発声個人レッスンの予定

11月1日・・・大久保

水野先生が指揮をされる演奏会2件

1. 東京クリスマス・オラトリオ・アカデミー創立20周年記念公演

11月12日(日) 東京オペラシティコンサートホール 13時30分開演

J. S. Bach: マタイ受難曲BWV244

エヴァンゲリスト・テノール：望月哲也、イエス：萩原 潤

ソプラノ：星川美保子、アルト：谷地畝晶子、バス：青山 貴

管弦楽：東京クリスマス・オラトリオ・アカデミー・アンサンブル

オルガン：平野智美

ソプラノの中西さん、平石さん、アルトの大久保さん、堀江さんが出演します。

2. 三菱東京UFJ銀行合唱団第7回定期演奏会

11月26日(日) 紀尾井ホール 14時開演

W. A. Mozart: 「戴冠式ミサ」、 「証聖者のための荘厳晩課」

ソプラノ： 星川美保子

アルト： 谷地畝晶子

テノール： 大島 博

バス： 浦野智行

中西さん、平石さん、佐藤さんが出演します。

2017年10月18日（水）

練習箇所

Johann Michael Haydn: Christus factus est, MH58  
Surgite sancti, MH311

記事

発声個人レッスンは堀江さんでした。  
全体発声は37分。

内容

★Christus factus est

アルトとテノール、ソプラノとバスの組み合わせで、ヴォカリーゼ(ho)で音取りをしてから、言葉を付けて歌いました。発音はドイツ語読みにする事にしました。

★Surgite sancti

ヴォカリーゼ(lo)で1度通しました。

出席者

ソプラノ：辻村 名阪 中西 平石  
アルト：上松 大久保 大友 大庭 堀江 （佐藤 濱野）  
テノール：小澤 大庭  
バス：椎野 中西 山村 （小林）  
欠席：2人(テノール・バス各1名)

備考

今日は10月8日の定期演奏会後の初練習でした。 Michael HaydnのVier Stückeの楽譜(コピー)を配布しました。20年前に使った元の楽譜が10冊ありましたので、希望者には500円で配布致します。

見学の方が3人来られ、一緒に練習に参加されました。

佐藤さんは、水野先生が指導されている三菱の合唱団で歌っていらっしゃる方です。

濱野さんは、水野先生が指導されている渋混に最近まで在籍されていて、アマデウスの定演では毎年受付を手伝って下さっています。

小林さんはアマデウスのHPをご覧になり、先日の定演を聴いて下さっています。

御三方とも、来週以降も続けて練習に参加して下さいですね！

先日の定演の入場者数は127名、そのうち7名の方が当日券を買って聴いて下さったそうです。

来年の演奏会は10月7日(日)に決定しました。前日の6日(土)にオケ合わせを行います。

来年3月21日(祝・水)は午後3時から8時まで練習を行います。

※年内の予定

12月13日に総会を行います。

12月27日の練習は、場所が変更になります。

発声個人レッスンの予定

10月25日・・・大久保



